

川俣町
第二次地域福祉計画策定のための
アンケート調査・ワークショップ
オンライン意見箱

— 調査結果報告書 —

令和7年3月

川俣町

＜目次＞

I	実施概要.....	1
	■ アンケート調査実施概要.....	1
	■ ワークショップの実施概要.....	2
	■ オンライン意見箱の実施概要.....	3
II	アンケート調査結果.....	4
	1 回答者のプロフィール.....	4
	2 「福祉」（心豊かに幸せな生活を営むための取組み）について.....	8
	3 地域との関わりについて.....	15
	4 地域活動やボランティア活動などについて.....	22
	5 災害時の助け合いについて.....	29
	6 避難指示解除後の生活などについて.....	31
	7 権利擁護や虐待防止について.....	33
	8 非行や犯罪をした方の立ち直りについて.....	37
	9 ひきこもりや閉じこもりについて.....	39
	10 今後の保健福祉施策について.....	40
	11 ご意見等.....	42
III	ワークショップ実施結果.....	46
	1 川俣町地域福祉計画（後期計画）の評価.....	46
	2 第二次川俣町地域福祉計画における重点課題の検討結果.....	50
IV	オンライン意見箱実施結果.....	66
	1 意見集.....	66
V	使用した調査票.....	87
	1 地域福祉計画策定のためのアンケート調査 調査票.....	87

I 実施概要

■ アンケート調査実施概要

1 目的

本調査は、町民の暮らしの状況や生活における課題等を聴取し地域福祉に係る現状や課題を分析することで、「第二次川俣町地域福祉計画」策定のための基礎資料として活用することを目的とした。

2 調査期間

令和6年7月10日（水）～令和6年8月2日（金）

※集計処理にあたっては、8月20日（火）着分の調査票まで含めた

3 調査対象

満18歳以上の町民（①高齢者、②障がいのある人、③子育て中の人、④その他の人） 1,000人

4 調査方法

WEB 回答併用による郵送調査

5 回収状況

配布数①	総回収数	有効回収数②	有効回収率 ②／①
1,000 件	437 件	437 件	43.7%

6 調査結果の見方

- （1）調査数（n＝number of cases）は比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答に相当するかを示す。
- （2）回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。したがって、単一回答形式の質問においては、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。また、回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると100.0%を超える。
- （3）調査数（n）が少数の場合、統計上の回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析を省略している場合がある。
- （4）図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

■ワークショップの実施概要

1 目的

「第二次川俣町地域福祉計画の策定」にあたり、地域福祉の担い手の立場から「川俣町地域福祉計画（後期計画）」の評価を実施いただくとともに、基本目標ごとの重点課題と課題の解決策を検討いただき、計画を策定する上での基礎資料とすることを目的とした。

2 実施日時

令和6年10月16日（水）13：30～15：30

3 会場

川俣町役場 3階 大会議室

4 参加者

区分	団体名	参加者数
Aグループ	J Aふくしま未来介護プランセンターかわまた	1名
	特定非営利活動法人川俣町セルフかえで	1名
	アールプラスワーク川俣	1名
	特定非営利活動法人コミュニティちゃばたけ	1名
Bグループ	川俣町民生委員協議会	1名
	社会福祉法人川俣町社会福祉協議会	1名
	済生会かわまた居宅介護支援事業所	1名
	合同会社アールプラス	1名
Cグループ	川俣町食生活改善推進員	1名
	I E PキッズカレッジB a n b i n i	1名
	川俣町社会福祉協議会 指定居宅介護支援事業所	1名
Dグループ	地域活動支援センター花塚	1名
	川俣町地域包括支援センター	1名
	南東北川俣居宅介護支援事業所	1名

■オンライン意見箱の実施概要

1 目的

川俣町が 10 年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、村民が思う理想の福祉のまちづくりについてお伺いし、理想の街となるために、自分や家族、地域、行政のそれぞれがどのようなことに取り組む必要があるのか、村民から意見を募集し、計画を策定する上での基礎資料とすることを目的とした。

2 募集期間

令和 6 年 10 月 1 日（火）～11 月 30 日（土）

3 募集方法

オンライン意見箱の特設ページを構築し、町のホームページや公式 LINE、広報誌において、広く周知し、意見を募集した。

4 募集結果

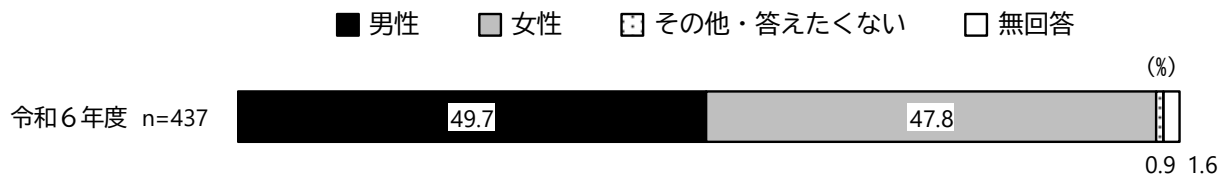
20 件

Ⅱ アンケート調査結果

1 回答者のプロフィール

(1) 性別

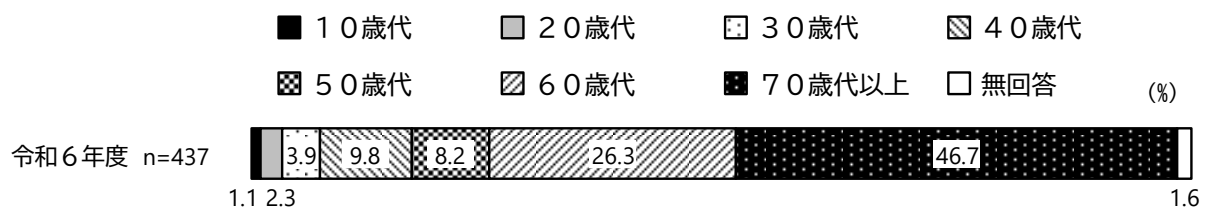
問1 あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ○)



性別について、「男性」が49.7%と最も高く、次いで「女性」(47.8%)、「その他・答えたくない」(0.9%)となっている。

(2) 年齢

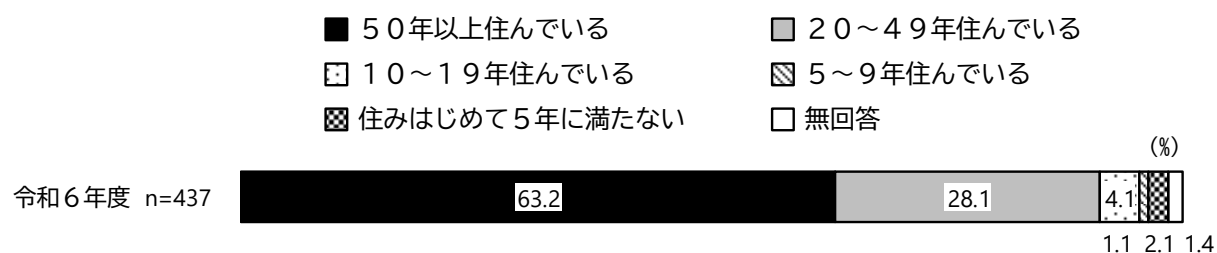
問2 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)



年齢について、「70歳代以上」が46.7%と最も高く、次いで「60歳代」(26.3%)、「40歳代」(9.8%)となっている。

(3) 居住期間

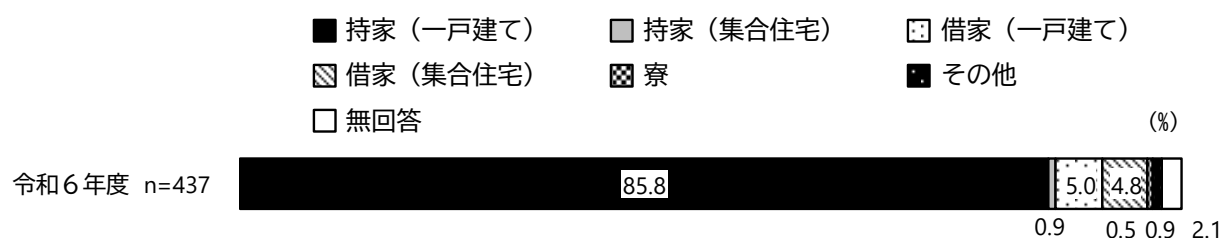
問3 あなたは川俣町に何年住んでいますか。(ひとつだけ○)



居住期間について、「50年以上住んでいる」が63.2%と最も高く、次いで「20～49年住んでいる」(28.1%)、「10～19年住んでいる」(4.1%)となっている。

(4) 居住形態

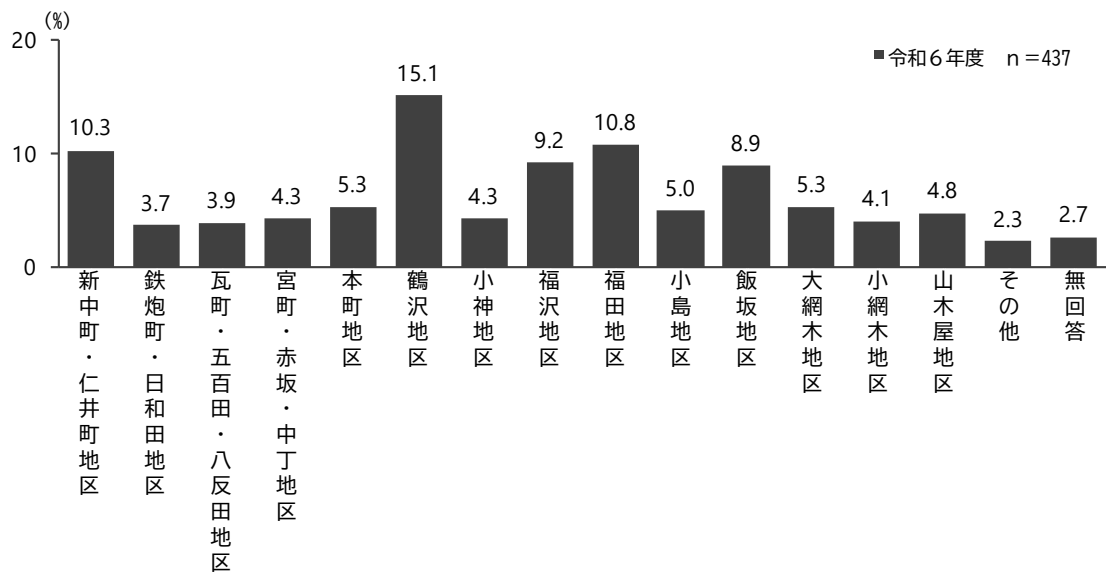
問4 あなたが暮らしている住宅の形態は次のどれにあたりますか。(ひとつだけ○)



居住形態について、「持家（一戸建て）」が85.8%と最も高く、次いで「借家（一戸建て）」(5.0%)、「借家（集合住宅）」(4.8%)となっている。

(5) 居住地区

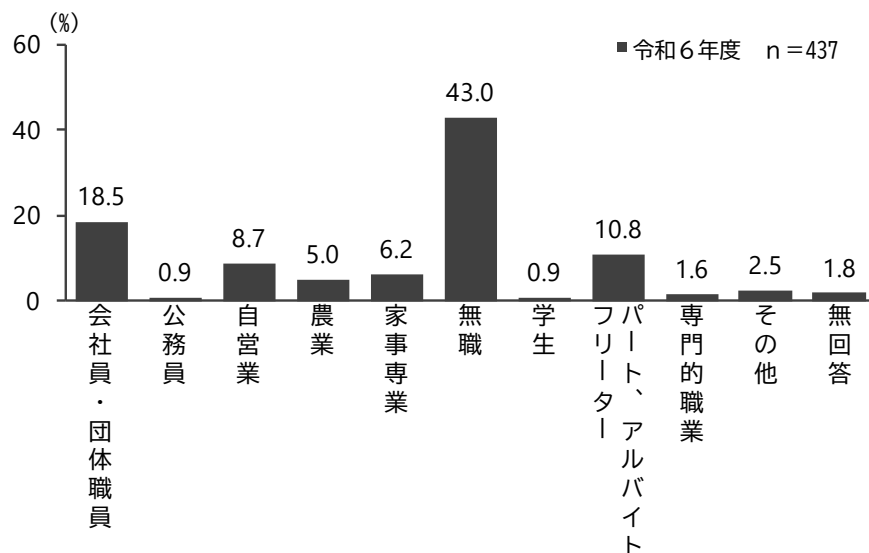
問5 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)



居住地区について、「鶴沢地区」が15.1%と最も高く、次いで「福田地区」(10.8%)、「新中町・仁井町地区」(10.3%)となっている。

(6) 職業

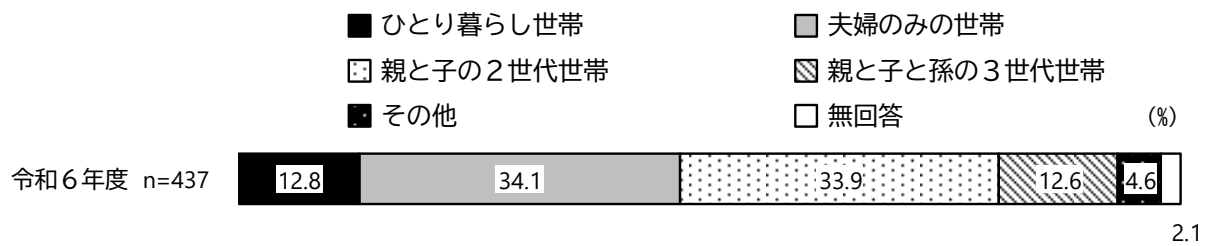
問6 あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ○)



職業について、「無職（年金生活者など）」が43.0%と最も高く、次いで「会社員・団体職員」(18.5%)、「パート、アルバイト、フリーター」(10.8%)となっている。

(7) 家族構成

問7 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

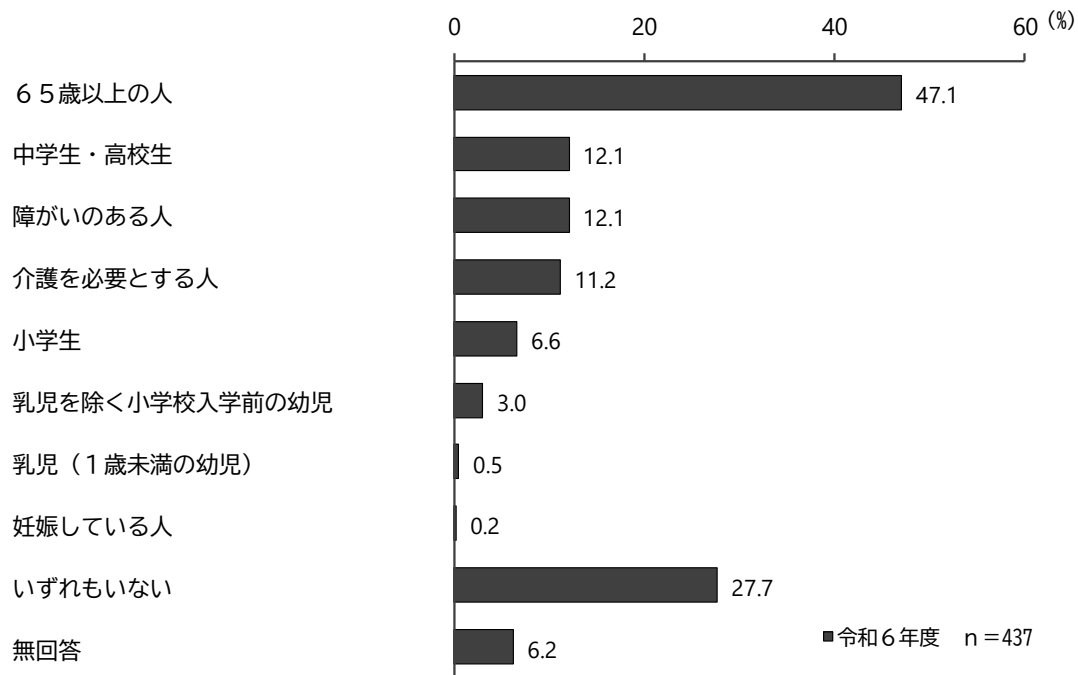


家族構成について、「夫婦のみの世帯」が34.1%と最も高く、次いで「親と子の2世代世帯」(33.9%)、「ひとり暮らし世帯」(12.8%)となっている。

(8) 同居している家族

問8 あなたご自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。

(あてはまるものすべてに○)

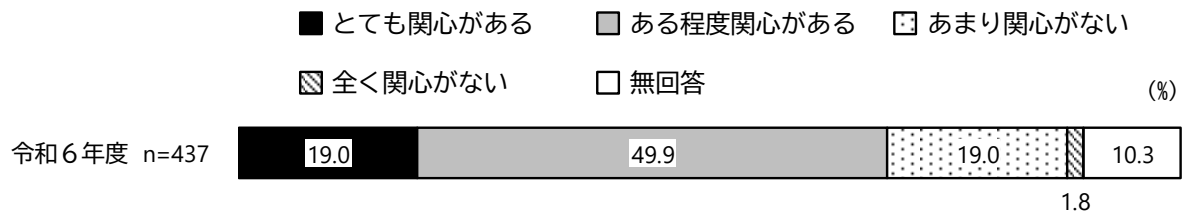


同居している家族について、「65歳以上の人」が47.1%と最も高く、次いで「中学生・高校生」「障がいのある人」(12.1%)となっている。

2 「福祉」(心豊かに幸せな生活を営むための取組み) について

(1) 福祉への関心

問9－(1) あなたは「福祉」に関心をおもちですか。(ひとつだけ○)

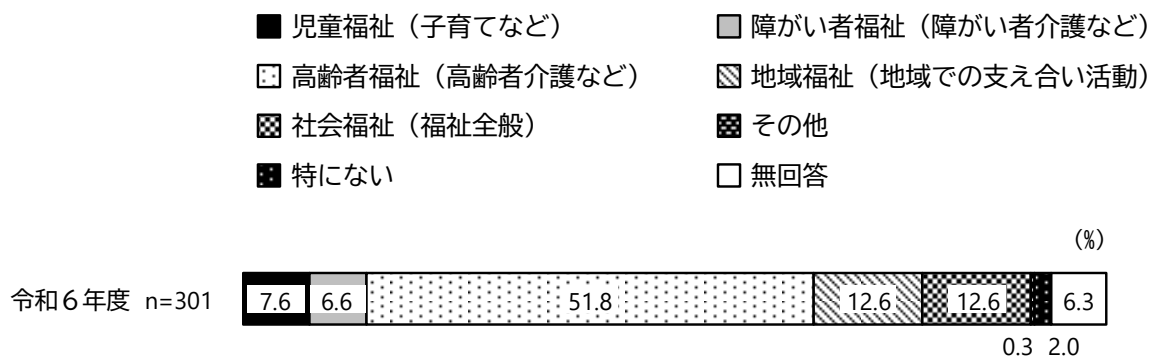


福祉への関心について、「とても関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせた『関心がある』が68.9%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない』が、20.8%となっている。

(2) 関心のある分野

(問9－(1)で「1. とても関心がある」「2. ある程度関心がある」を選んだ人におたずねします。)

問9－(2) 特に関心のある分野はどれですか。(ひとつだけ○)

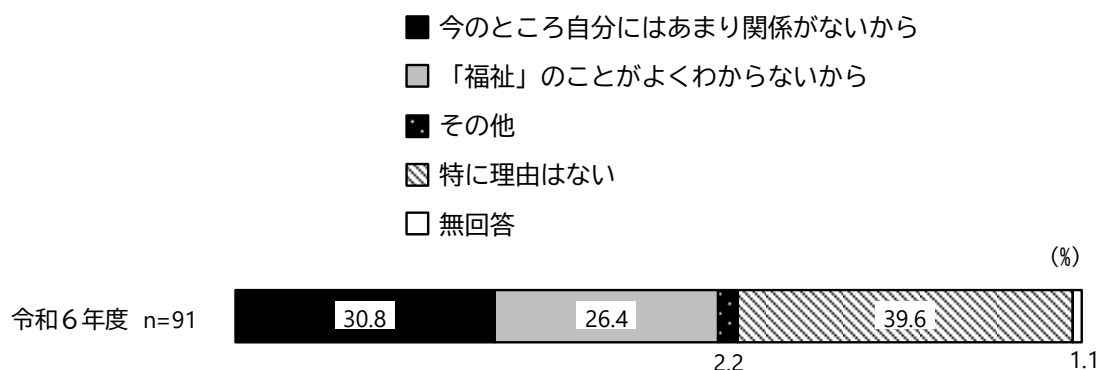


関心のある分野について、「高齢者福祉(高齢者介護など)」が51.8%と最も高く、次いで「地域福祉(地域での支え合い活動)」「社会福祉(福祉全般)」(12.6%)となっている。

(3) 関心がない理由

(問9－(1)で「3. あまり関心がない」「4. 全く関心がない」を選んだ人におたずねします。)

問9－(3) その理由はなんですか。(ひとつだけ○)

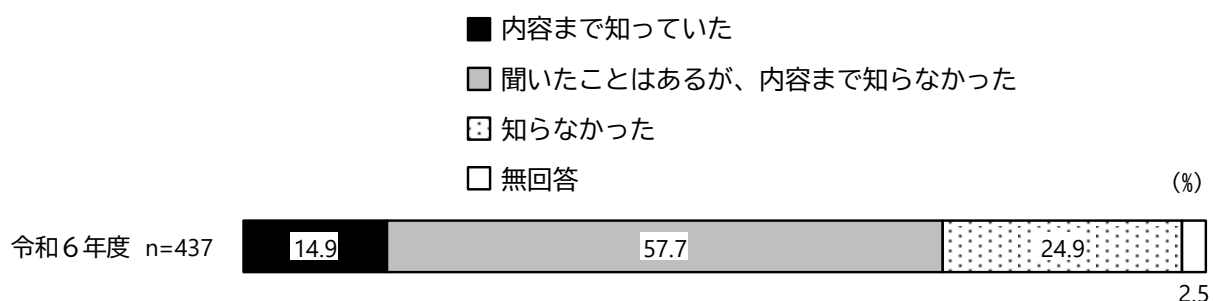


関心がない理由について、「特に理由はない」が39.6%と最も高く、次いで「今のところ自分にはあまり関係がないから」(30.8%)、「福祉」のことがよくわからないから」(26.4%)となっている。

(4) 地域福祉という言葉を知っていたか

問10 あなたはこの調査に回答する前から「地域福祉」という言葉を知っていましたか。

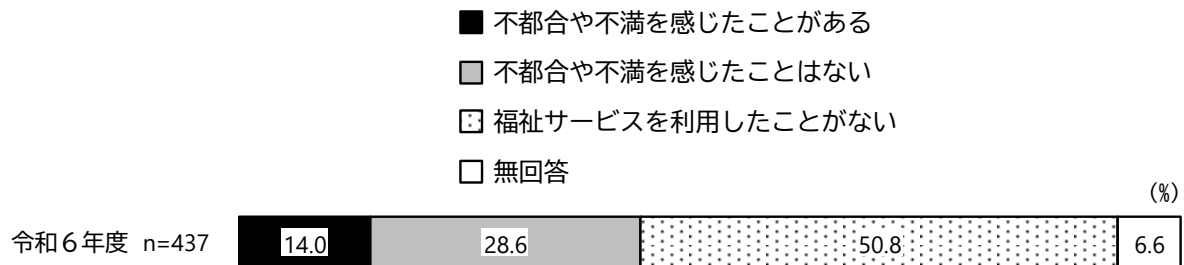
(ひとつだけ○)



地域福祉という言葉を知っていたかについて、「聞いたことはあるが、内容まで知らなかった」が57.7%と最も高く、次いで「知らなかった」(24.9%)、「内容まで知っていた」(14.9%)となっている。

(5) 福祉サービスを利用する際の不都合や不満度

問 11 あなたやあなたのご家族は、これまで「福祉サービス」を利用する際に、不都合に感じたことや不満に思ったことはありますか。(ひとつだけ○)



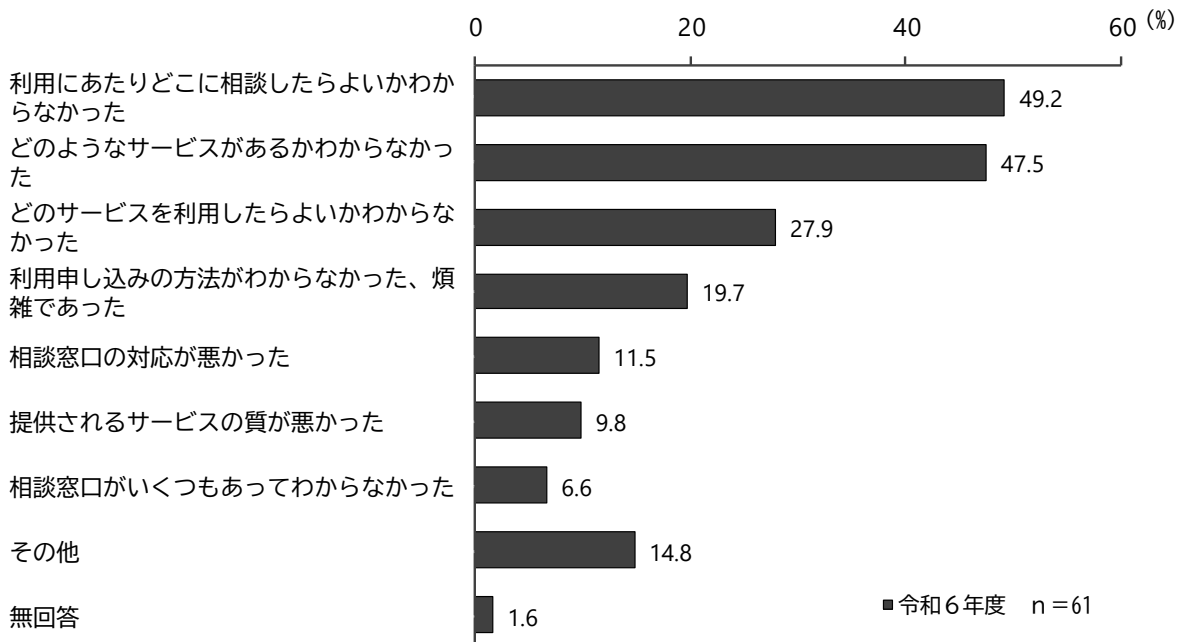
福祉サービスを利用する際の不都合や不満度について、「福祉サービスを利用したことがない」が50.8%と最も高く、次いで「不都合や不満を感じたことはない」(28.6%)、「不都合や不満を感じたことがある」(14.0%)となっている。

(6) 不都合や不満を感じたこと

(問 11 で「1. 不都合や不満を感じたことがある」を選んだ人におたずねします。)

問 12 「福祉サービス」のどのようなことに不都合に感じたり不満に思ったりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)



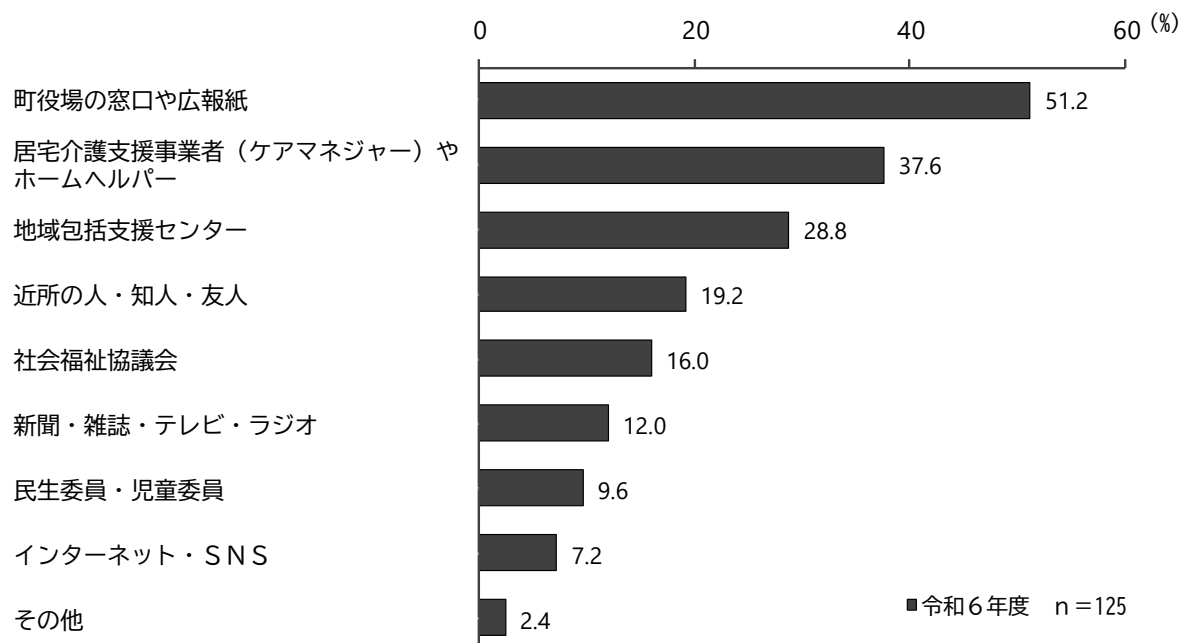
不都合や不満を感じたことについて、「利用にあたりどこに相談したらよいかわからなかった」が49.2%と最も高く、次いで「どのようなサービスがあるかわからなかった」(47.5%)、「どのサービスを利用したらよいかわからなかった」(27.9%)となっている。

(7) 福祉サービスに関する情報の主な入手先

(問 11 で「2. 不都合や不満を感じたことはない」を選んだ人におたずねします。)

問 13 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

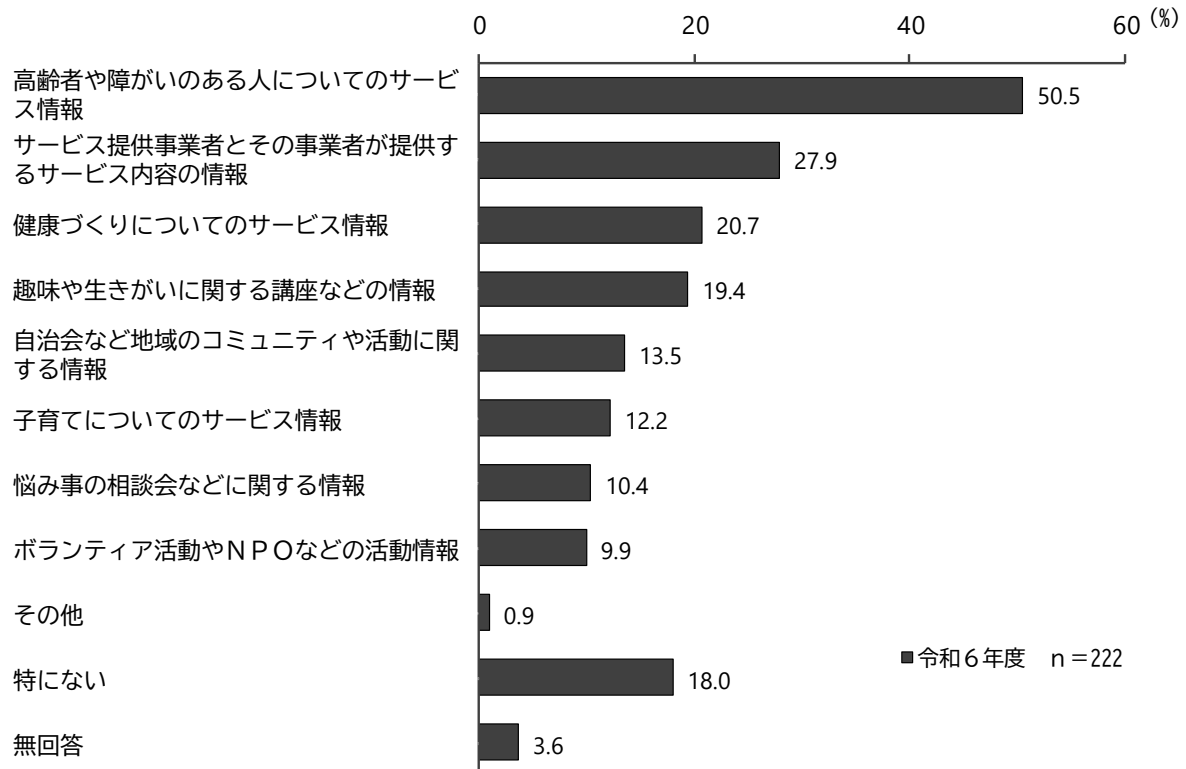


福祉サービスに関する情報の主な入手先について、「町役場の窓口や広報紙」が 51.2%と最も高く、次いで「居宅介護支援事業者 (ケアマネジャー) やホームヘルパー」(37.6%)、「地域包括支援センター」(28.8%) となっている。

(8) 知りたい情報や充実してほしい情報

(問 11 で「3. 福祉サービスを利用したことがない」を選んだ人におたずねします。)

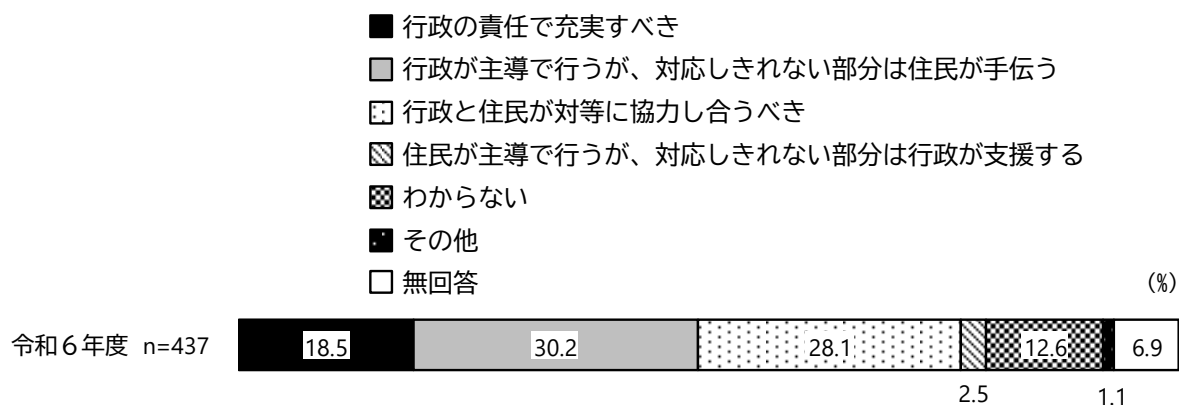
問 14 「福祉サービス」について、どのような情報を知りたい、またはどのような情報を充実してほしいと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)



知りたい情報や充実してほしい情報について、「高齢者や障がいのある人についてのサービス情報」が 50.5%と最も高く、次いで「サービス提供事業者とその事業者が提供するサービス内容の情報」(27.9%)、「健康づくりについてのサービス情報」(20.7%) となっている。

(9) 福祉サービスを充実させるうえでの行政と地域住民の関係性

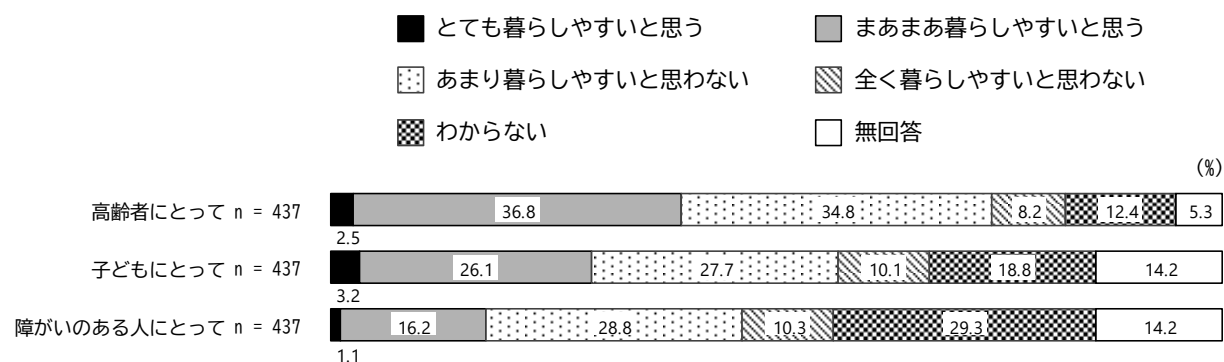
問 15 「福祉サービス」を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係はどのようにあるべきだと考えていますか。(ひとつだけ○)



福祉サービスを充実させるうえでの行政と地域住民の関係性について、「行政が主導で行うが、対応しきれない部分は住民が手伝う」が30.2%と最も高く、次いで「行政と住民が対等に協力し合うべき」(28.1%)、「行政の責任で充実すべき」(18.5%)となっている。

(10) 川俣町は暮らしやすいまちだと思うか

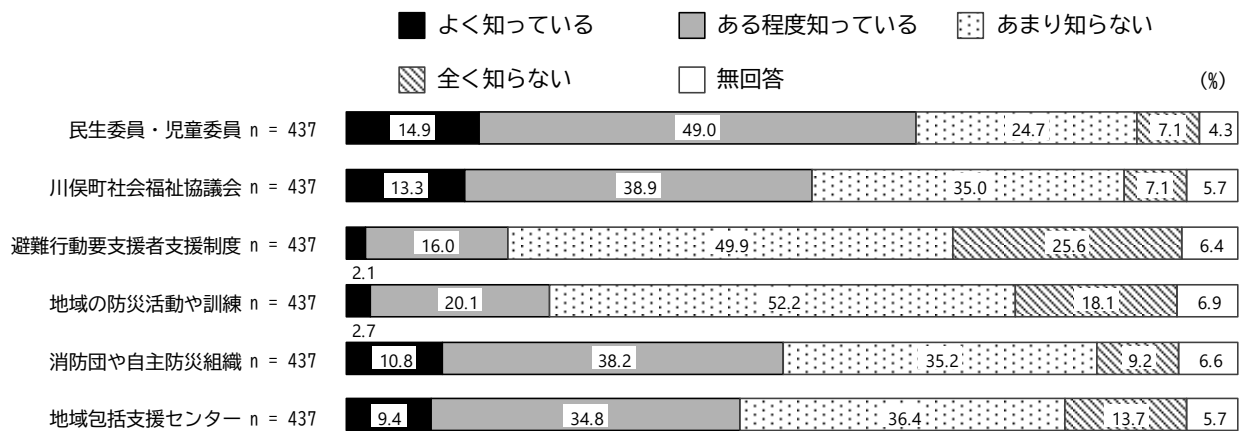
問 16 川俣町は子どもや高齢者、障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(それぞれひとつだけ○)



川俣町は暮らしやすいまちだと思うかについて、高齢者では「とても暮らしやすいと思う」と「まあまあ暮らしやすいと思う」を合わせた『暮らしやすいと思う』が39.3%、「あまり暮らしやすいと思わない」と「全く暮らしやすいと思わない」を合わせた『暮らしやすいと思わない』が43.0%となっている。子どもでは『暮らしやすいと思う』が29.3%、『暮らしやすいと思わない』が37.8%となっており、障がいのある人では『暮らしやすいと思う』が17.3%、『暮らしやすいと思わない』が39.1%となっている。

(11) 団体や機関、制度等の認知度

問 17 あなたは、次の団体や機関、制度等を知っていますか。(それぞれひとつだけ○)

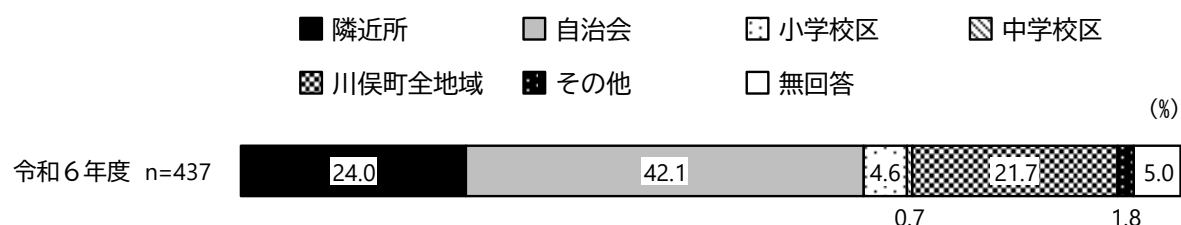


団体や機関、制度等の認知度について、民生委員・児童委員では「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』が63.9%、「あまり知らない」と「全く知らない」を合わせた『知らない』が31.8%となっている。川俣町社会福祉協議会では『知っている』が52.2%、『知らない』が42.1%となっており、避難行動要支援者支援制度では『知っている』が18.1%、『知らない』が75.5%、地域の防災活動や訓練では『知っている』が22.8%、『知らない』が70.3%、消防団や自主防災組織では『知っている』が49.0%、『知らない』が44.4%、地域包括支援センターでは『知っている』が44.2%、『知らない』が50.1%となっている。

3 地域との関わりについて

(1) あなたが考える地域の範囲

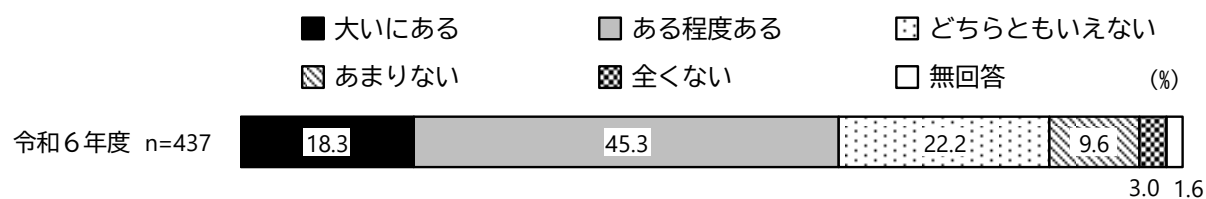
問 18 あなたが考える「地域」の範囲をお答えください。(ひとつだけ○)



あなたが考える地域の範囲について、「自治会」が42.1%と最も高く、次いで「隣近所」(24.0%)、「川俣町全地域」(21.7%)となっている。

(2) 現在住んでいる地域への愛着

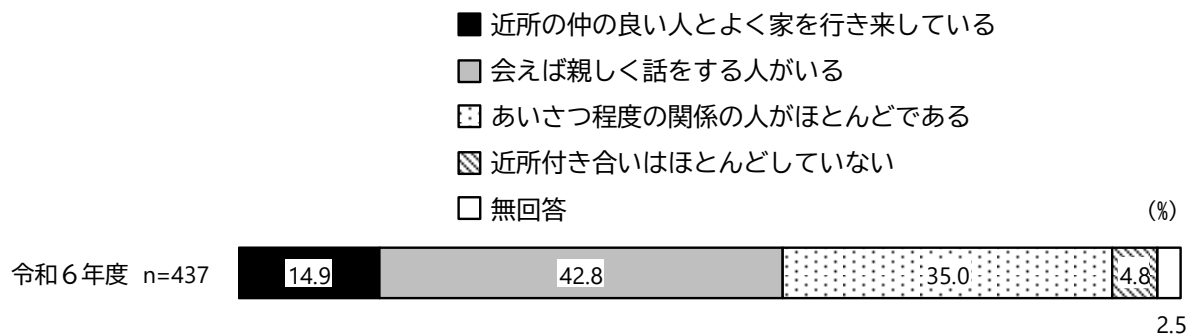
問 19 あなたは、現在住んでいる地域に愛着がありますか。(ひとつだけ○)



現在住んでいる地域への愛着について、「大いにある」と「ある程度ある」を合わせた『愛着がある』が63.6%、「あまりない」と「全くない」を合わせた『愛着がない』が12.6%となっている。

(3) 近所の人との付き合い

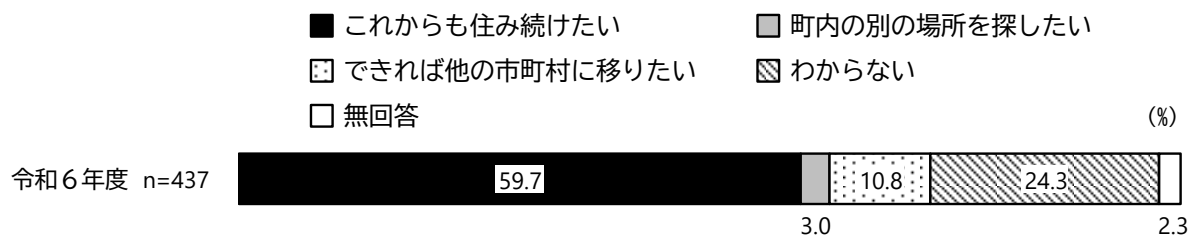
問 20 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)



近所の人との付き合いについて、「会えば親しく話をする人がいる」が42.8%と最も高く、次いで「あいさつ程度の関係の人がほとんどである」(35.0%)、「近所の仲の良い人とよく家を行き来している」(14.9%)となっている。

(4) 現在住んでいるところに住み続けたいか

問 21 あなたは、現在住んでいる所に住み続けたいと思いますか。(ひとつだけ○)

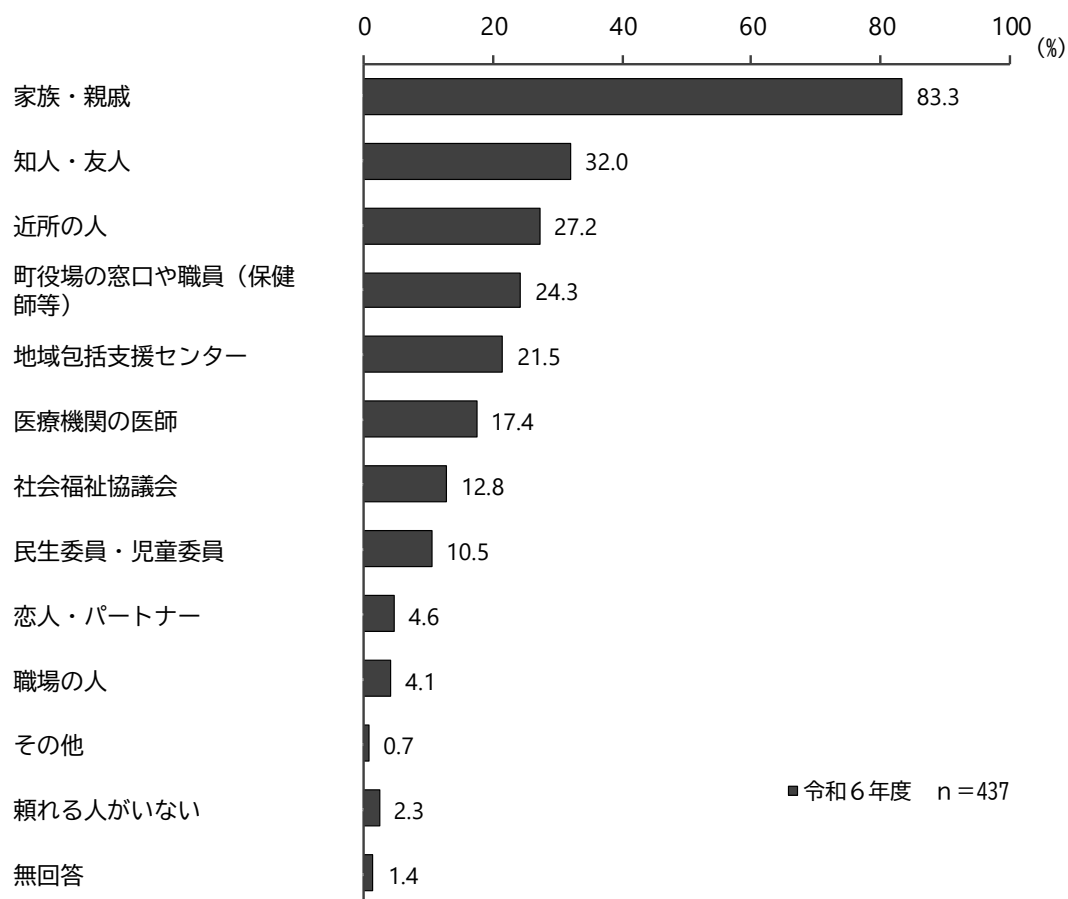


現在住んでいるところに住み続けたいかについて、「これからも住み続けたい」が59.7%と最も高く、次いで「わからない」(24.3%)、「できれば他の市町村に移りたい」(10.8%)となっている。

(5) 相談や助けを頼みたい人

問 22 あなたは、暮らしの中で相談や助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。

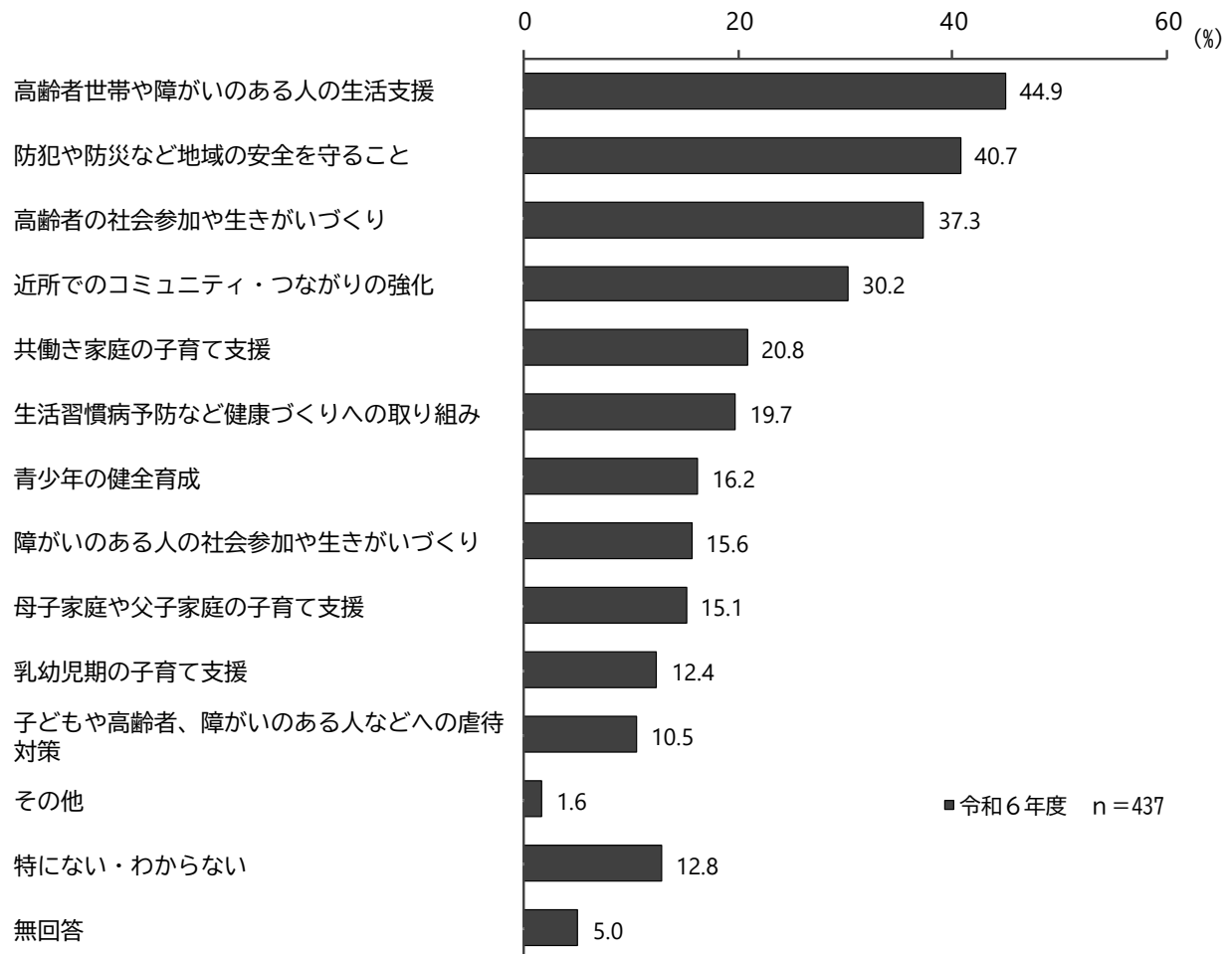
(あてはまるものすべてに○)



相談や助けを頼みたい人について、「家族・親戚」が83.3%と最も高く、次いで「知人・友人」(32.0%)、「近所の人」(27.2%) となっている。

(6) 地域住民が取り組むべき課題や問題

問 23 あなたの身近な地域には、地域住民が取り組むべき課題や問題としてどのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)



地域住民が取り組むべき課題や問題について、「高齢者世帯や障がいのある人の生活支援」が44.9%と最も高く、次いで「防犯や防災など地域の安全を守ること」(40.7%)、「高齢者の社会参加や生きがいのづくり」(37.3%)となっている。

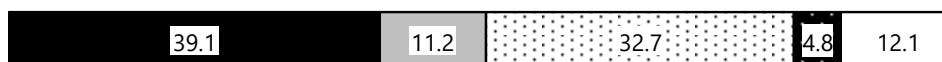
(7) 日常で起こる問題の解決方法

問 24 日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。

(ひとつだけ○)

- ☐ 自分たちの生活に関わることから、できるだけ住民同士で協力して解決したい
☐ 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
☐ 行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい
☐ その他
☐ 無回答

令和6年度 n=437

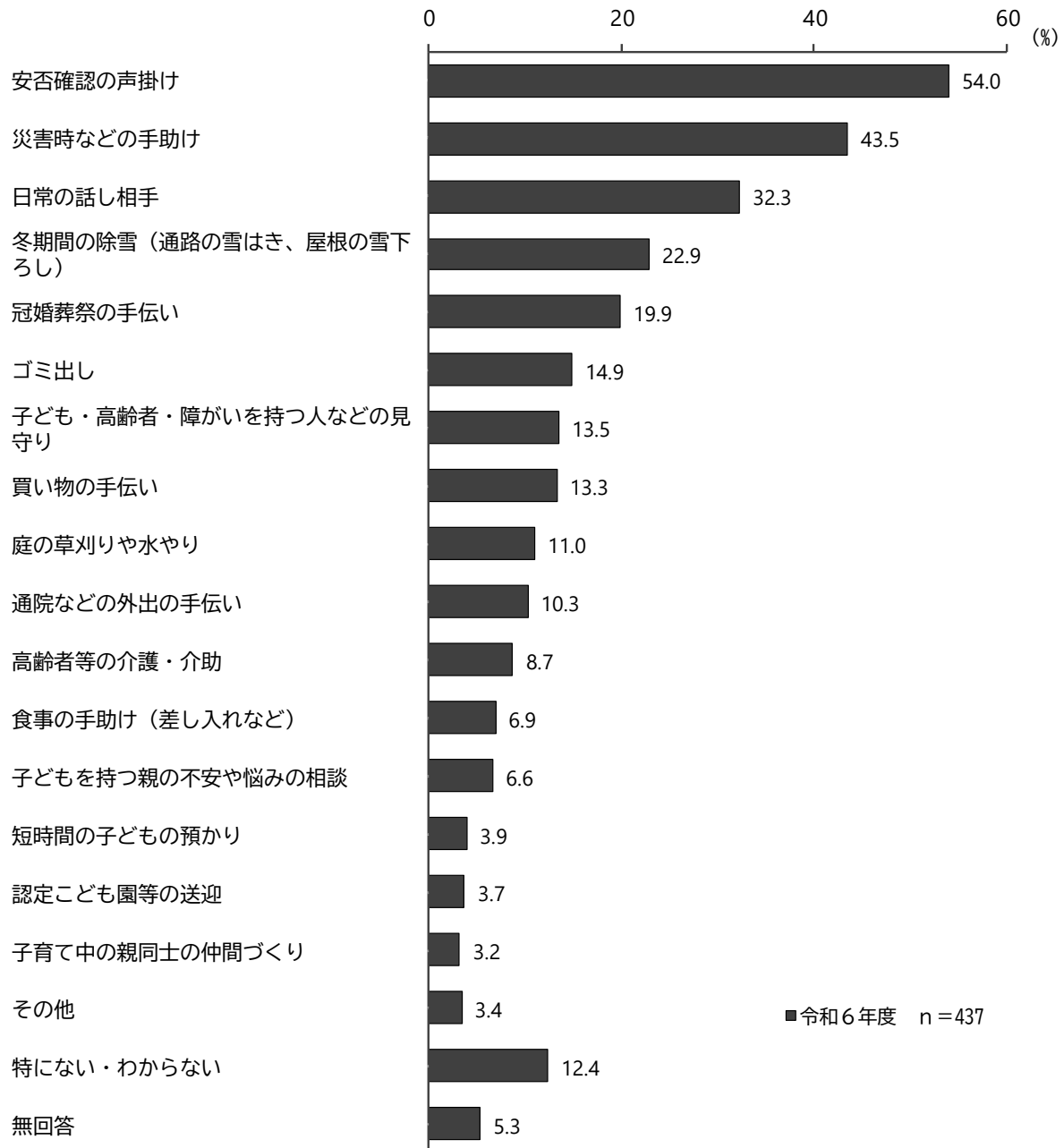


(%)

日常で起こる問題の解決方法について、「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が39.1%と最も高く、次いで「行政に解決してもらえるように、積極的に要求していきたい」(32.7%)、「地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい」(11.2%)となっている。

(8) 隣近所の人に手助けしてあげたいと思うこと

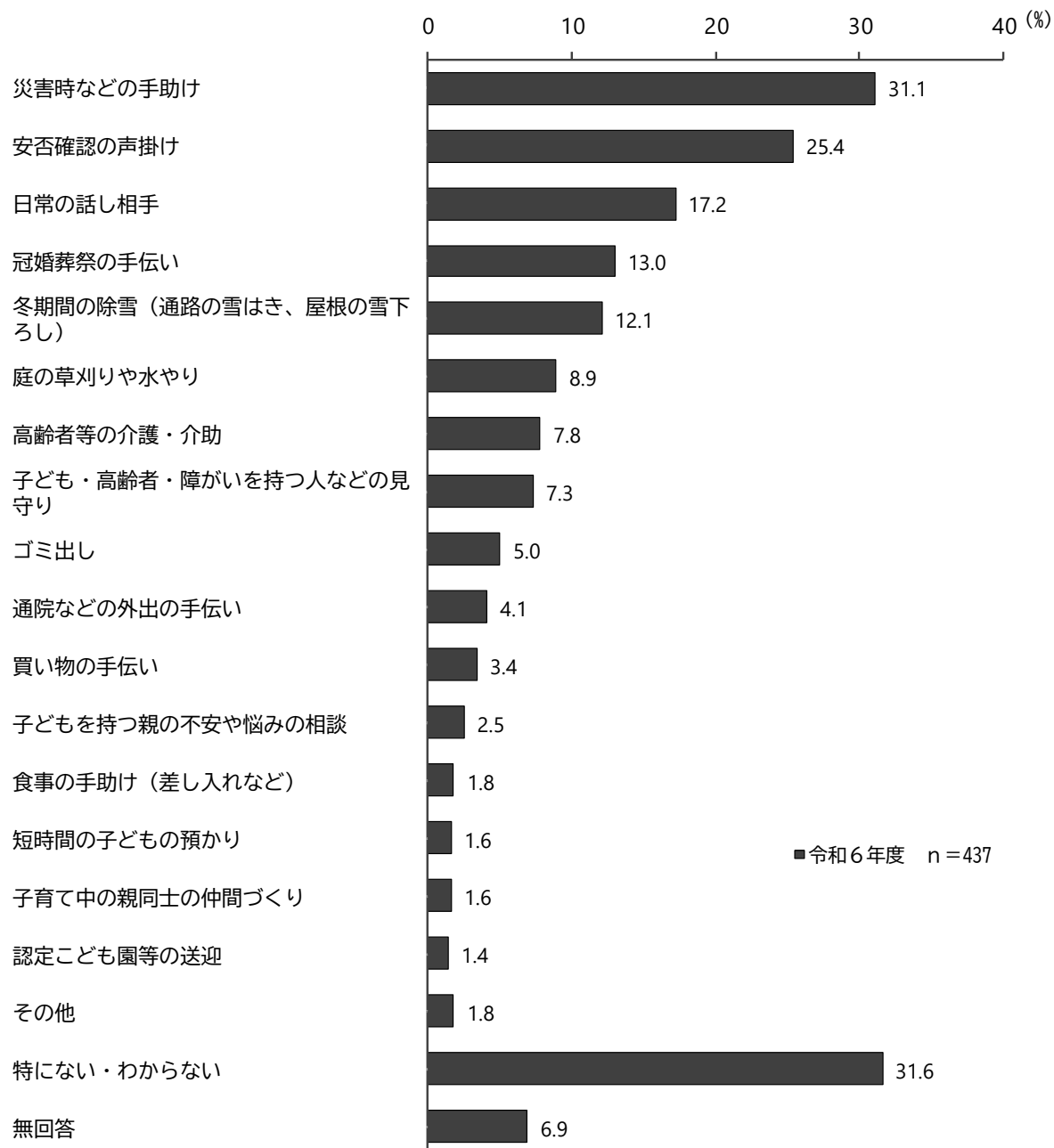
問 25 隣近所に困っている人がいたときに、あなたが「手助けしてあげたい」と思うことは、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)



隣近所の人に手助けしてあげたいと思うことについて、「安否確認の声掛け」が54.0%と最も高く、次いで「災害時などの手助け」(43.5%)、「日常の話し相手」(32.3%)となっている。

(9) 隣近所の人に手助けしてほしいと思うこと

問 26 あなたやご家族が困っていることで、隣近所の人に「手助けしてほしい」と思うことは、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

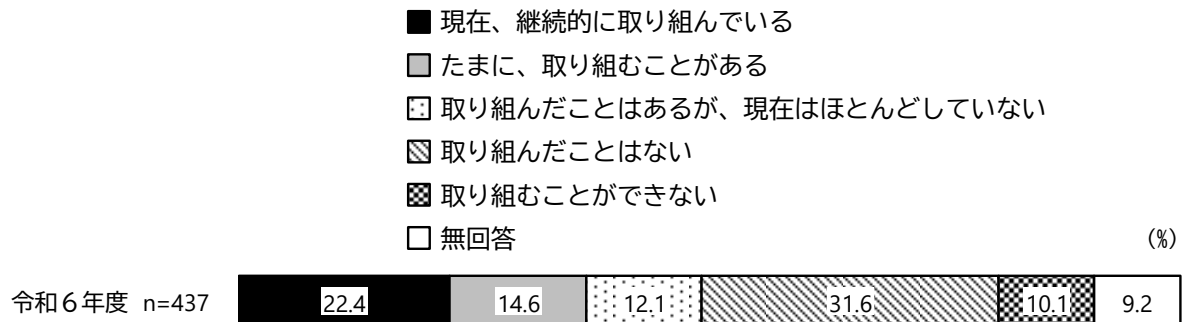


隣近所の人に手助けしてほしいと思うことについて、「災害時などの手助け」が31.1%と最も高く、次いで「安否確認の声掛け」(25.4%)、「日常の話し相手」(17.2%)となっている。

4 地域活動やボランティア活動などについて

(1) 現在の支援活動への取り組み

問 27ー(1) あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。(ひとつだけ○)

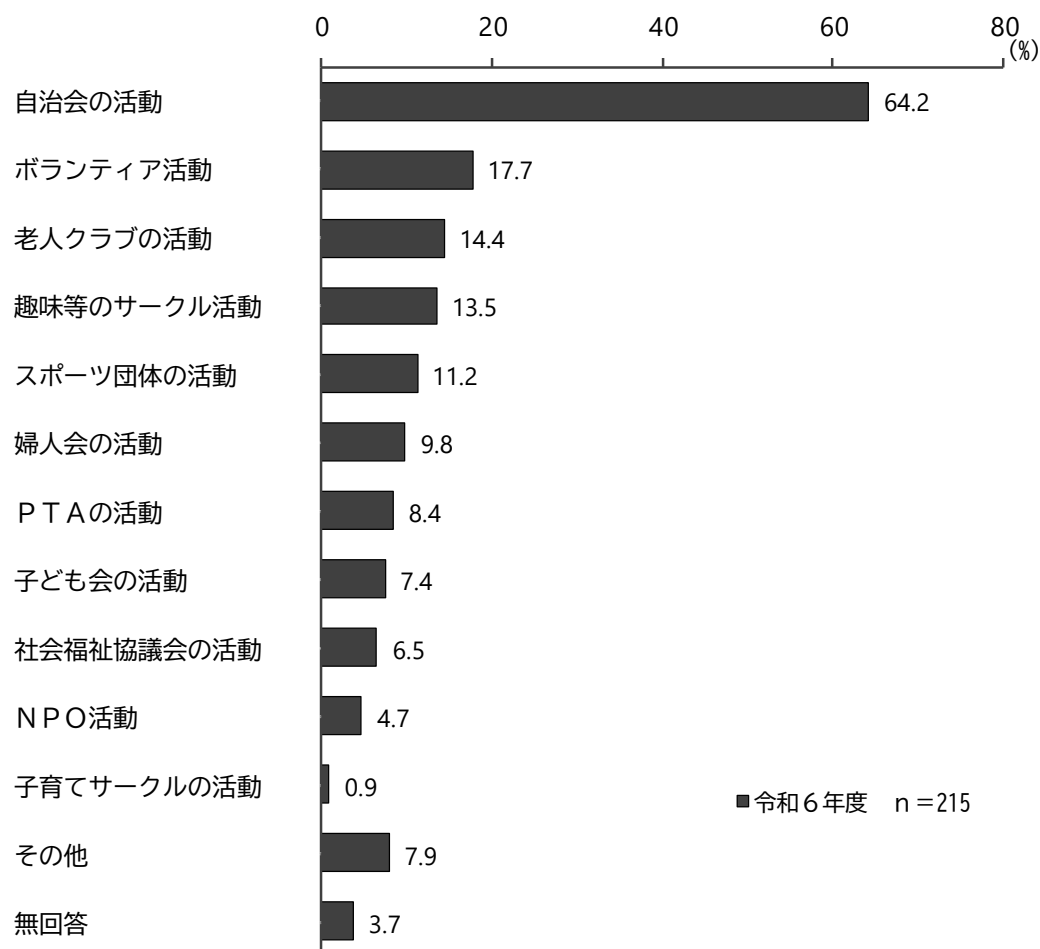


現在の支援活動への取り組みについて、「取り組んだことはない」が31.6%と最も高く、次いで「現在、継続的に取り組んでいる」(22.4%)、「たまに、取り組むことがある」(14.6%)となっている。

(2) どんな支援活動をしているか

(問 27ー(1)で「1. 現在、継続的に取り組んでいる」「2. たまに、取り組むことがある」「3. 取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。)

問 27ー(2) どんな地域活動やボランティア活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

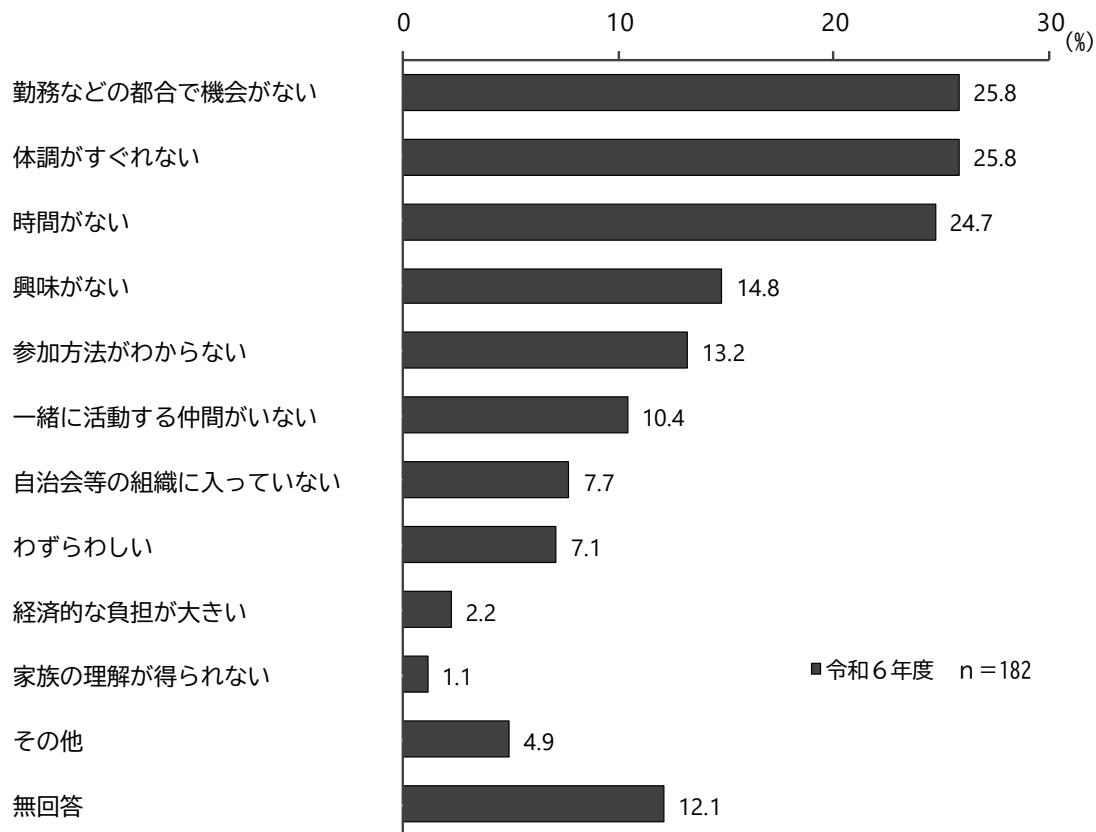


どんな支援活動をしているかについて、「自治会の活動」が64.2%と最も高く、次いで「ボランティア活動」(17.7%)、「老人クラブの活動」(14.4%)となっている。

(3) 支援活動をしていない理由

(問 27ー(1)で「4. 取り組んだことはない」「5. 取り組むことができない」を選んだ人におたずねします。)

問 27ー(3) 活動していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



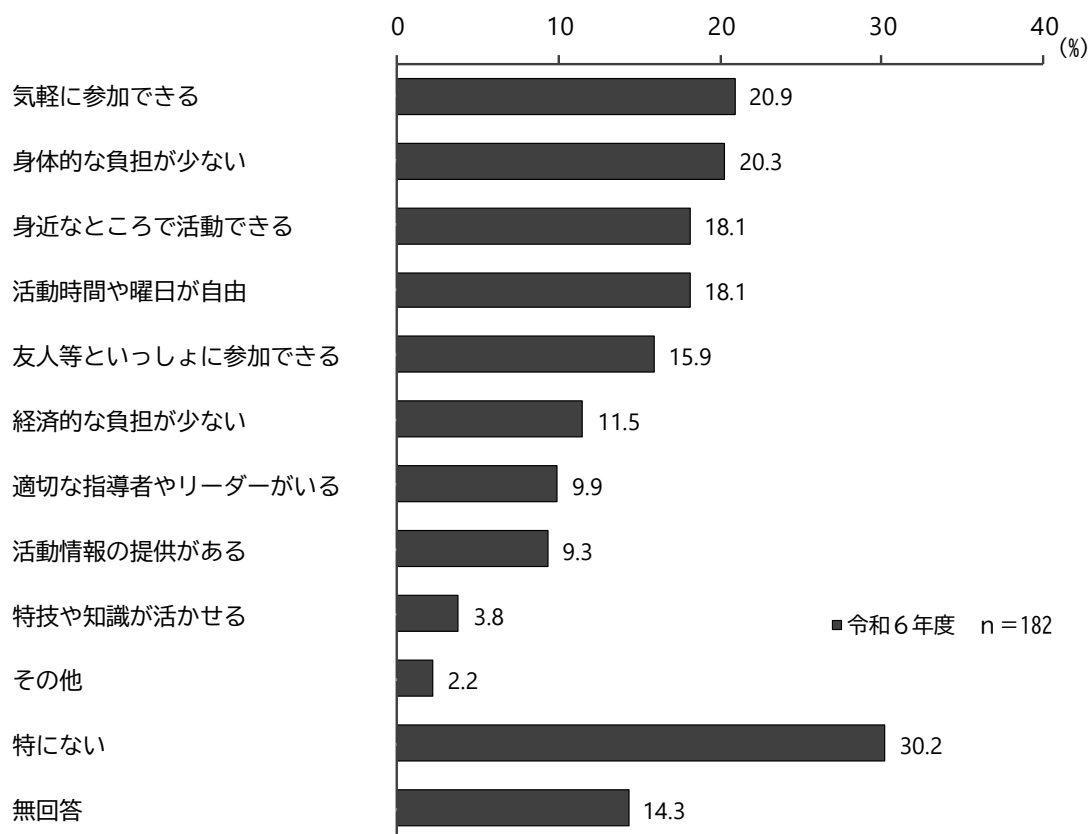
支援活動をしていない理由について、「勤務などの都合で機会がない」「体調がすぐれない」が25.8%と最も高く、次いで「時間がない」(24.7%)、「興味がない」(14.8%)となっている。

(4) 支援活動に参加したいと思う条件

(問 27ー(1) で「4. 取り組んだことはない」「5. 取り組むことができない」を選んだ人におたずねします。)

問 27ー(4) どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。

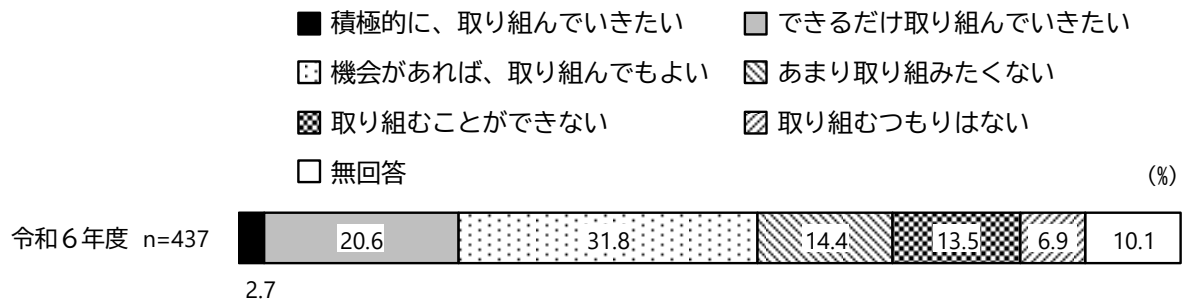
(あてはまるものすべてに○)



支援活動に参加したいと思う条件について、「気軽に参加できる」が 20.9%と最も高く、次いで「身体的な負担が少ない」(20.3%)、「身近なところで活動できる」「活動時間や曜日が自由」(18.1%)、となっている。

(5) 今後の支援活動への取り組み

問 28－(1) あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。(ひとつだけ○)

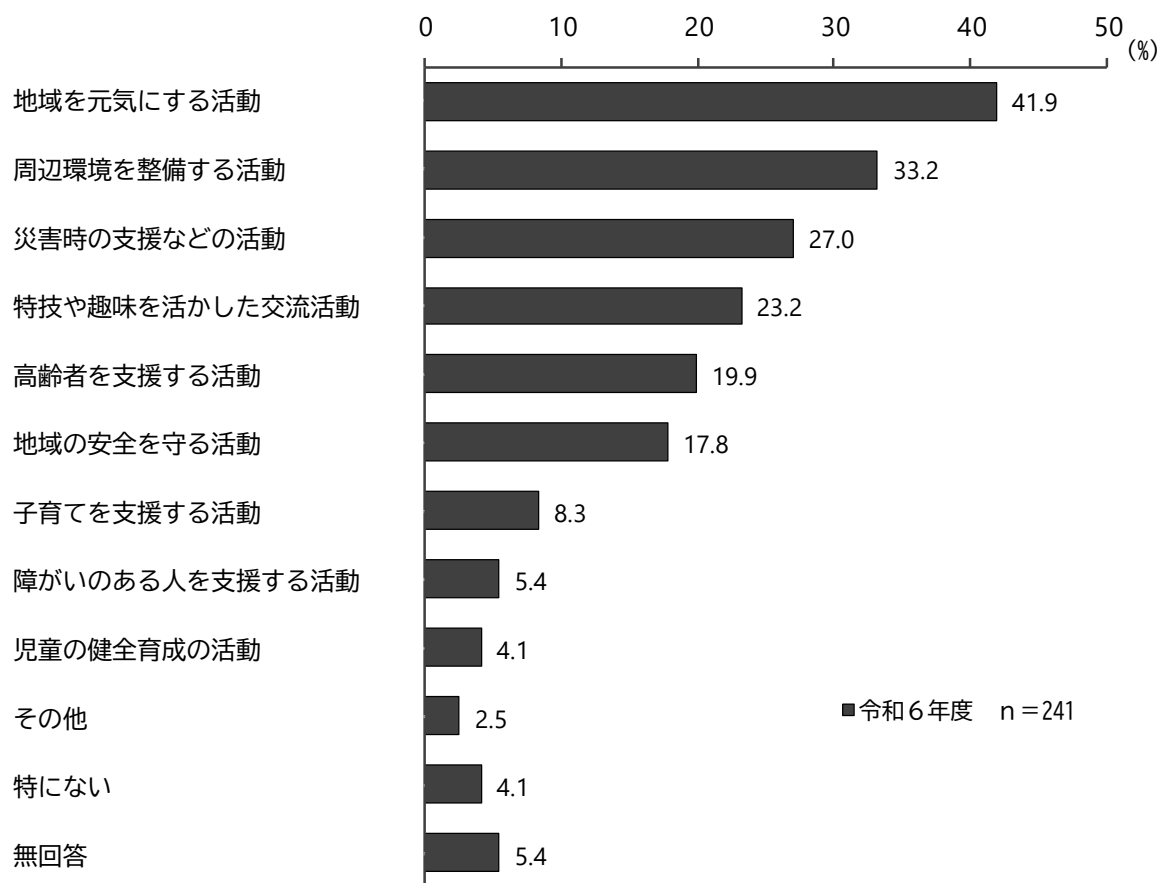


今後の支援活動への取り組みについて、「機会があれば、取り組んでもよい」が31.8%と最も高く、次いで「できるだけ取り組んでいきたい」(20.6%)、「あまり取り組みたくない」(14.4%)となっている。

(6) 今後取り組みたい活動支援

(問 28－(1) で「1. 積極的に、取り組んでいきたい」「2. できるだけ取り組んでいきたい」「3. 機会があれば、取り組んでもよい」を選んだ人におたずねします。)

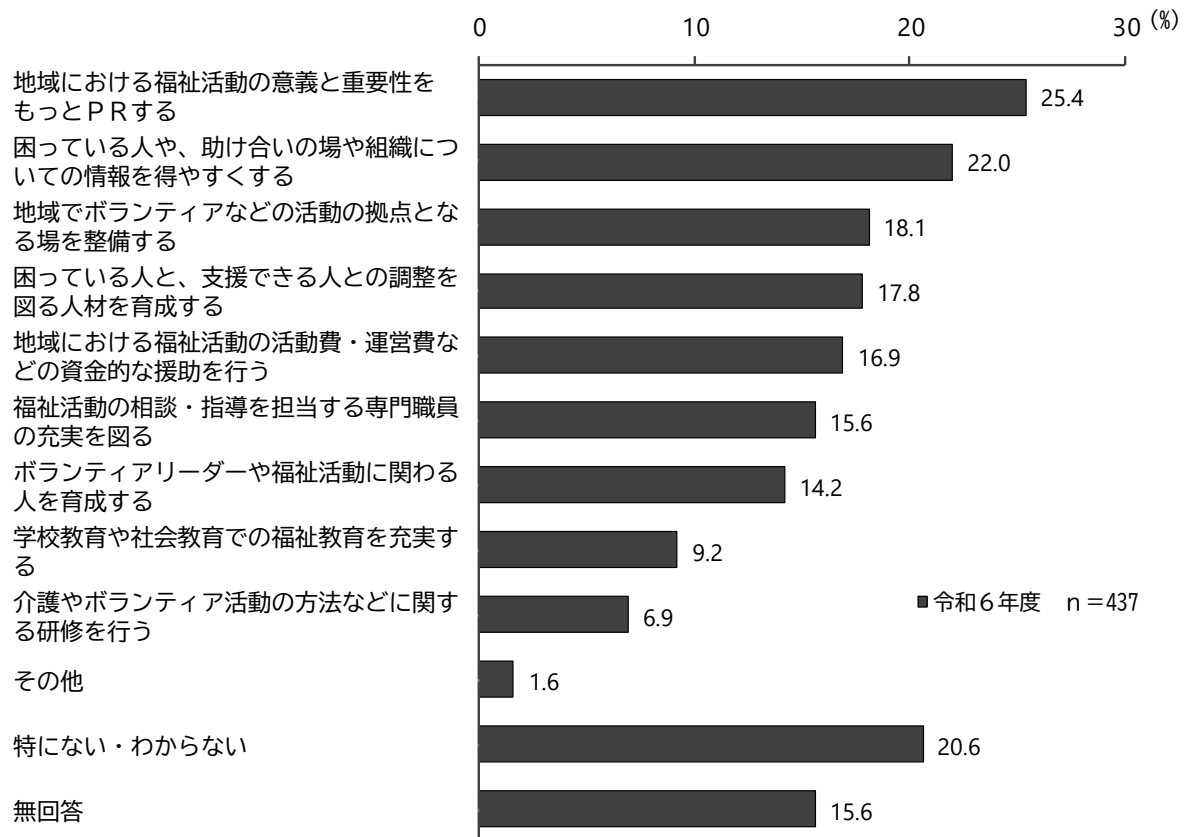
問 28－(2) あなたが今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等は何ですか。(3 つまで○)



今後取り組みたい活動支援について、「地域を元気にする活動」が 41.9%と最も高く、次いで「周辺環境を整備する活動」(33.2%)、「災害時の支援などの活動」(27.0%) となっている。

(7) 支援活動を活発にするために重要だと思うこと

問 29 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで○)



支援活動を活発にするために重要だと思うことについて、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が25.4%と最も高く、次いで「困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする」(22.0%)、「地元でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」(18.1%)となっている。

5 災害時の助け合いについて

(1) 緊急時に避難の手助けができるか

問 30－(1) 災害などの緊急時に、周りに高齢者や障がいのある人などがいた場合、可能な範囲でその人の避難等の手助けができますか。(ひとつだけ○)

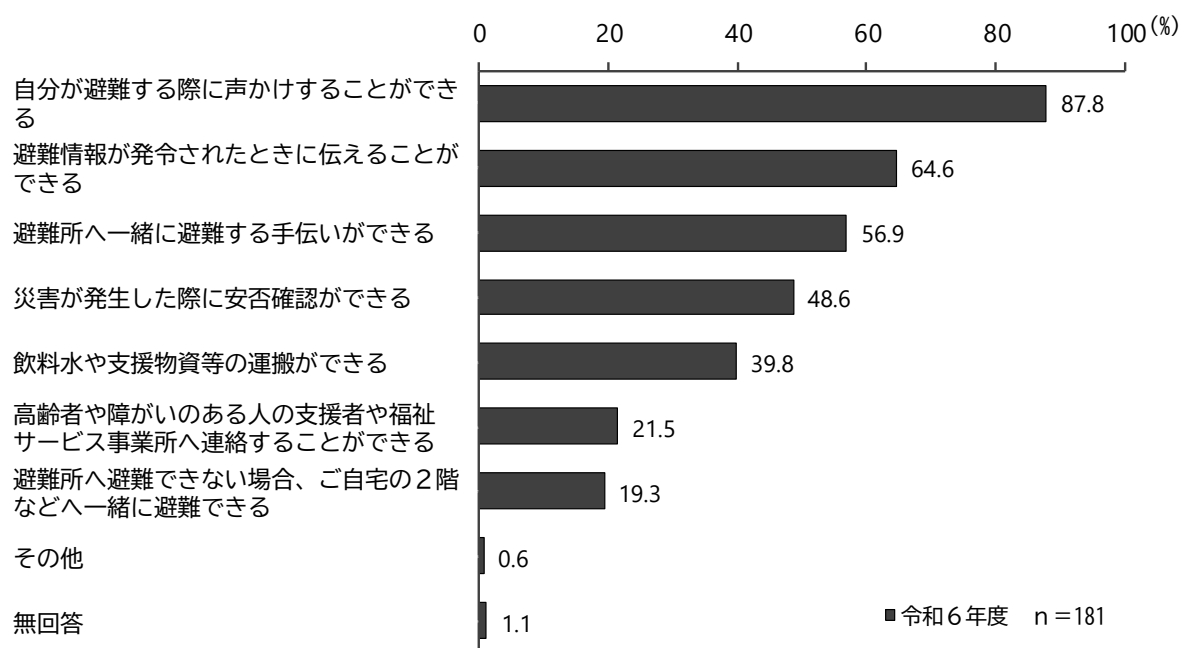


緊急時に避難の手助けができるかについて、「できる」が41.4%と最も高く、次いで「難しい」(28.4%)、「わからない」(22.9%)となっている。

(2) 手助けできること

(問 30－(1) で「1. できる」を選んだ人におたずねします。)

問 30－(2) あなたにできる手助けはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

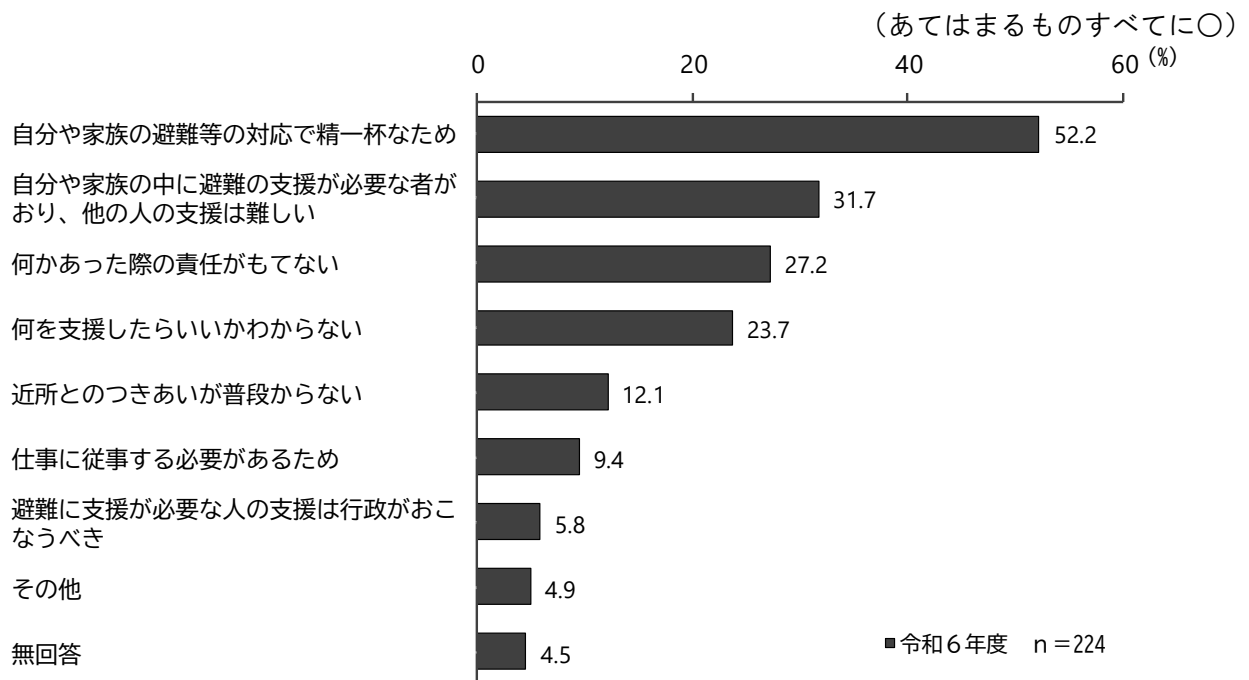


手助けできることについて、「自分が避難する際に声かけすることができる」が87.8%と最も高く、次いで「避難情報が発令されたときに伝えることができる」(64.6%)、「避難所へ一緒に避難する手伝いができる」(56.9%)となっている。

(3) 手助けが難しい理由

(問 30－(1) で「2. 難しい」「3. わからない」を選んだ人におたずねします。)

問 30－(3) 手助けするのが難しいまたはわからない理由は何ですか。



手助けが難しい理由について、「自分や家族の避難等の対応で精一杯なため」が 52.2%と最も高く、次いで「自分や家族の中に避難の支援が必要な者がおり、他の人の支援は難しい」(31.7%)、「何かあった際の責任がもてない」(27.2%)となっている。

6 避難指示解除後の生活などについて

(1) 東日本大震災発生前に山木屋地区に住んでいたか

問 31－(1) あなたは、東日本大震災発生前に山木屋地区にお住まいでしたか。(ひとつだけ○)



東日本大震災発生前に山木屋地区に住んでいたかについて、「住んでいなかった」が 84.2%と最も高く、次いで「住んでいた」(9.8%) となっている。

(2) 避難前に暮らしていた家族と現在も暮らしているか

(問 31－(1) で「1. 住んでいた」を選んだ人におたずねします。)

問 31－(2) あなたは、避難前に一緒に住んでいた家族と、現在も一緒に暮らしていますか。

(ひとつだけ○)

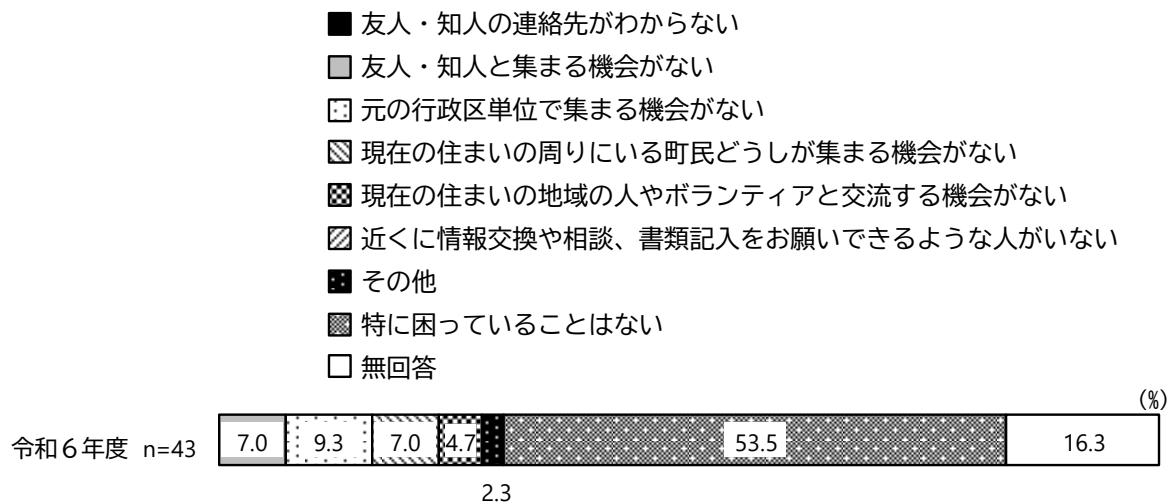


避難前に暮らしていた家族と現在も暮らしているかについて、「数箇所に分かれて暮らしている」が 48.8%と最も高く、次いで「全員で暮らしている」(41.9%) となっている。

(3) 地域コミュニティ面で困っていること

(問 31ー(1) で「1. 住んでいた」を選んだ人におたずねします。)

問 31ー(3) 現在お住まいの地域での近所付き合い、友人・知人とのお付き合いや地域コミュニティなどの面で、お困りのことはありますか。(ひとつだけ○)



地域コミュニティ面で困っていることについて、「元の行政区単位で集まる機会がない」が9.3%と最も高く、次いで「友人・知人と集まる機会がない」「現在の住まいの周りにいる町民どうしが集まる機会がない」(7.0%)となっている。また、「特に困っていることはない」は53.3%となっている。

7 権利擁護や虐待防止について

(1) 虐待や暴力などを見たり、聞いたりしたことがあるか

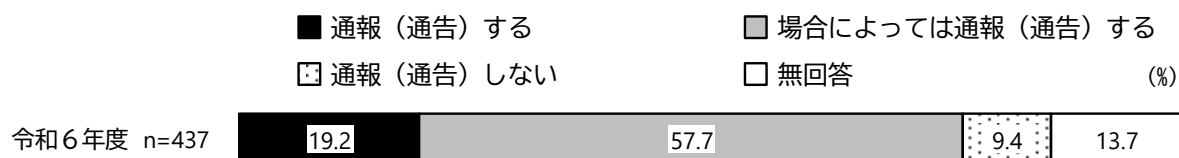
問 32 あなたは近年、地域や身近において、子どもや高齢者、障がいのある方等への虐待や暴力などを見たり、聞いたりしたことがありますか。(ひとつだけ○)



虐待や暴力などを見たり、聞いたりしたことがあるかについて、「ない」が88.8%と最も高く、次いで「ある」(6.4%)となっている。

(2) 虐待や暴力などを見たり、聞いたりした場合の対応

問 33ー(1) あなたは、地域や身近において、子どもや高齢者、障がいのある方等への虐待や暴力などを見たり、聞いたりした場合、どのような対応をしますか。(ひとつだけ○)

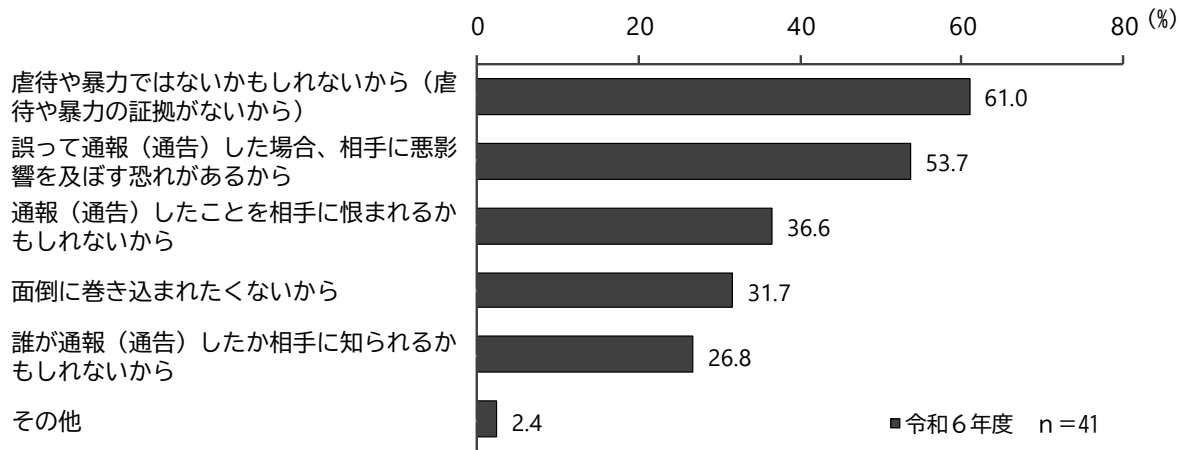


虐待や暴力などを見たり、聞いたりした場合の対応について、「場合によっては通報(通告)する」が57.7%と最も高く、次いで「通報(通告)する」(19.2%)、「通報(通告)しない」(9.4%)となっている。

(3) 通報（通告）しない理由

（問 33ー（1）で「3. 通報（通告）しない」を選んだ人におたずねします。）

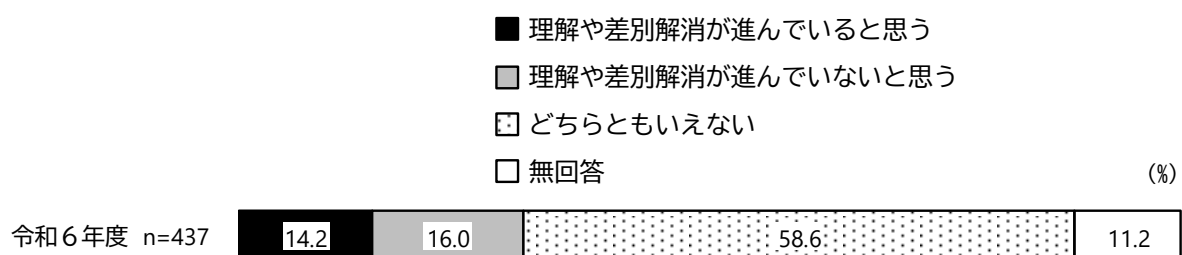
問 33ー（2） 通報（通告）しない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



通報（通告）しない理由について、「虐待や暴力ではないかもしれないから（虐待や暴力の証拠がないから）」が 61.0%と最も高く、次いで「誤って通報（通告）した場合、相手に悪影響を及ぼす恐れがあるから」（53.7%）、「通報（通告）したことを相手に恨まれるかもしれないから」（36.6%）となっている。

(4) 差別解消への推進

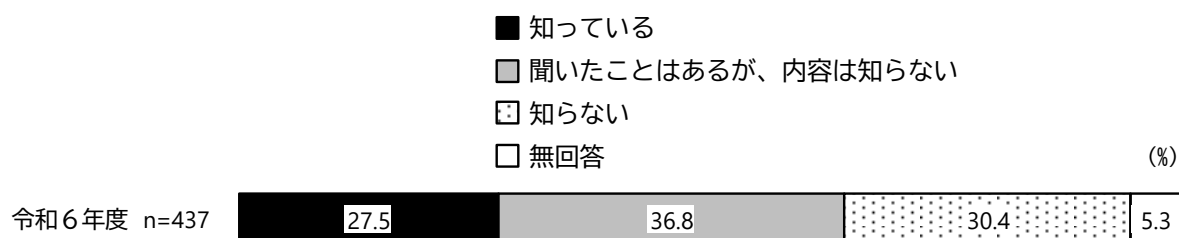
問 34 あなたは近年、地域や身近において、障がいのある方への理解や差別解消が進んでいると思いますか。（ひとつだけ○）



差別解消への推進について、「どちらともいえない」が 58.6%と最も高く、次いで「理解や差別解消が進んでいないと思う」（16.0%）、「理解や差別解消が進んでいると思う」（14.2%）となっている。

(5) 成年後見制度の認知度

問 35 あなたは成年後見制度を知っていますか。(ひとつだけ○)

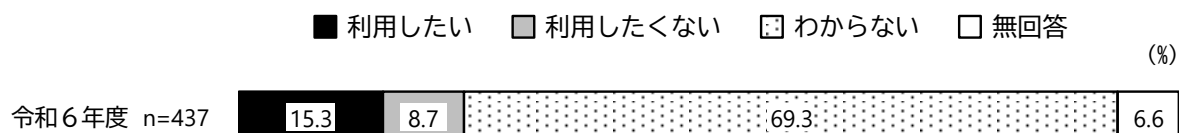


成年後見制度の認知度について、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が36.8%と最も高く、次いで「知らない」(30.4%)、「知っている」(27.5%)となっている。

(6) 成年後見制度を利用したいと思うか

問 36 あなたは、あなたや家族が日常生活を送るうえで、判断能力に支援が必要となった場合、成年後見制度※を利用したいと思いますか。(ひとつだけ○)

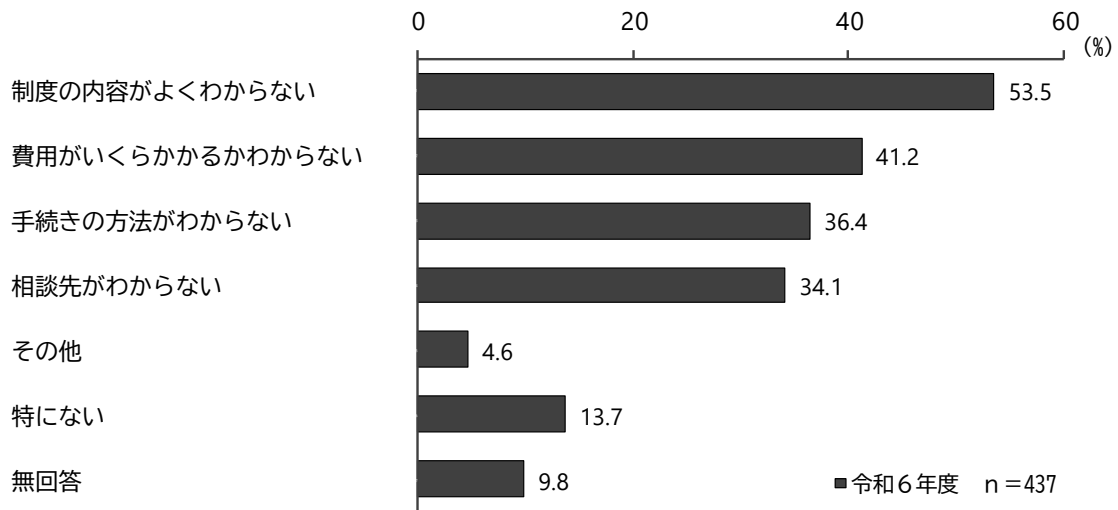
※成年後見制度とは、認知症や知的障がい等で判断が十分にできない場合、財産管理などを成年後見人に 代行してもらう仕組み。本人や家族らが家庭裁判所に申し立てすれば、弁護士や司法書士、親族らを成年後 見人に選任できる制度。



成年後見制度を利用したいと思うかについて、「わからない」が69.3%と最も高く、次いで「利用したい」(15.3%)、「利用したくない」(8.7%)となっている。

(7) 成年後見制度を利用する上で不安に思うこと

問 37 あなたが今後、成年後見制度を利用することがあった場合、不安に思うことはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

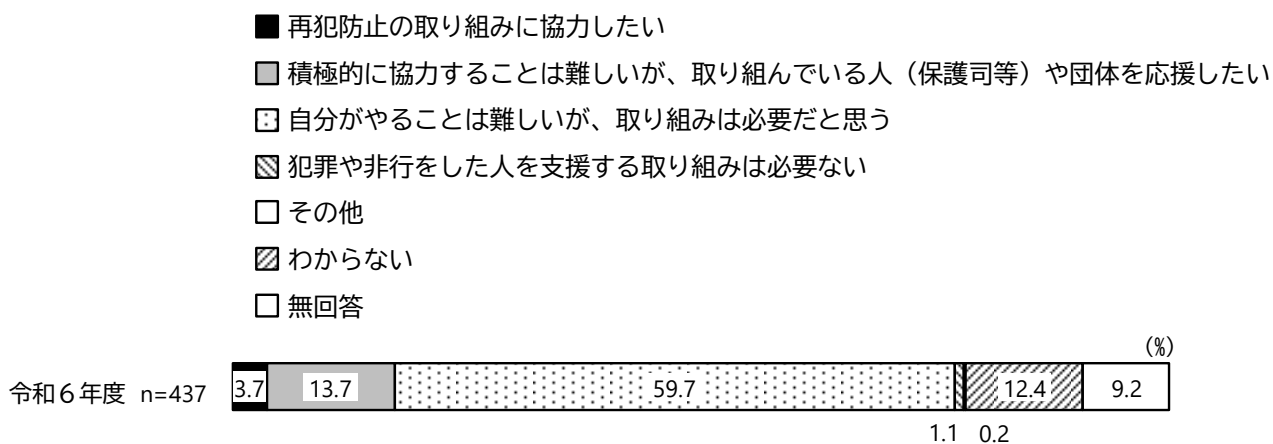


成年後見制度を利用する上で不安に思うことについて、「制度の内容がよくわからない」が53.5%と最も高く、次いで「費用がいくらかかるかわからない」(41.2%)、「手続きの方法がわからない」(36.4%)となっている。

8 非行や犯罪をした方の立ち直りについて

(1) 再犯防止の取り組みについての考え方

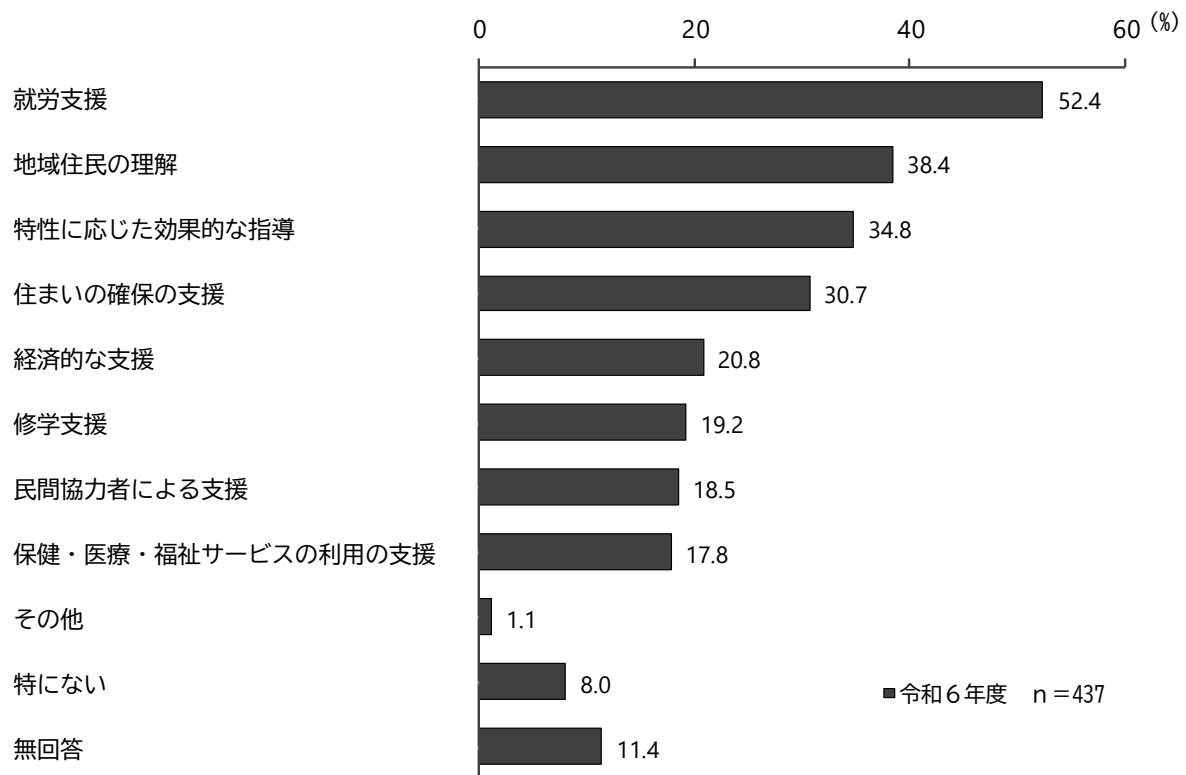
問 38 あなたの再犯防止の取り組みについての考え方は、次のどれに近いですか。(ひとつだけ○)



再犯防止の取り組みについての考え方について、「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」が59.7%と最も高く、次いで「積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人（保護司等）や団体を応援したい」（13.7%）、「わからない」（12.4%）となっている。

(2) 立ち直りのために必要な支援

問 39 あなたは、非行や犯罪をした方の立ち直りのために、どのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

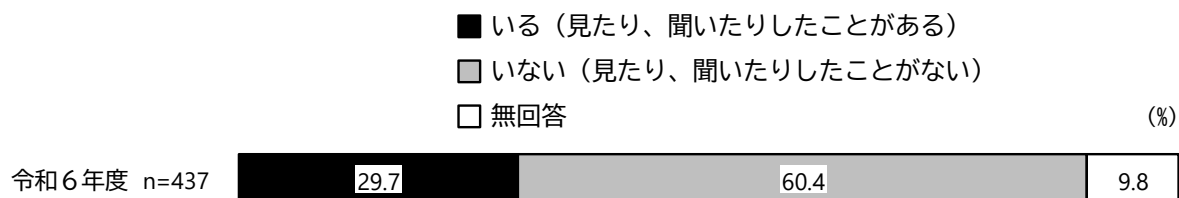


立ち直りのために必要な支援について、「就労支援」が52.4%と最も高く、次いで「地域住民の理解」(38.4%)、「特性に応じた効果的な指導」(34.8%)となっている。

9 ひきこもりや閉じこもりについて

(1) ひきこもりの方の認知度

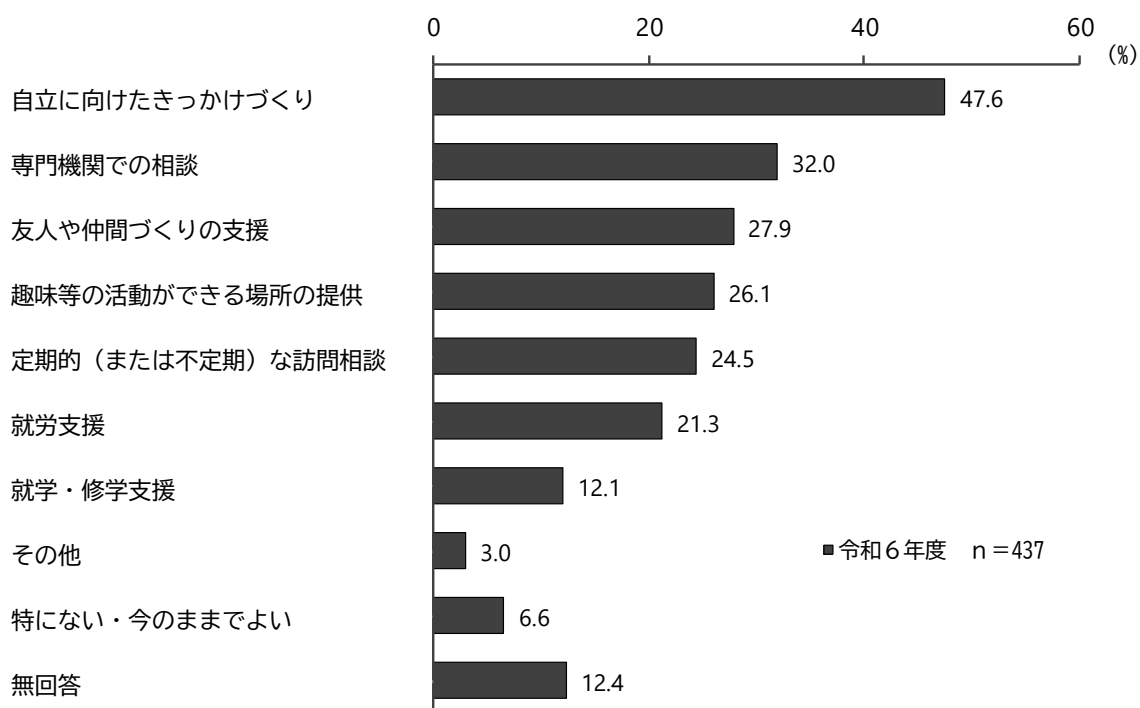
問 40 地域や身近において、ひきこもりや閉じこもりの方などはいますか。(ひとつだけ○)



ひきこもりの方の認知度について、「いない（見たり、聞いたりしたことがない）」が60.4%と最も高く、次いで「いる（見たり、聞いたりしたことがある）」（29.7%）となっている。

(2) ひきこもりの方への支援

問 41 あなたは、ひきこもりや閉じこもりの方へどのような支援が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

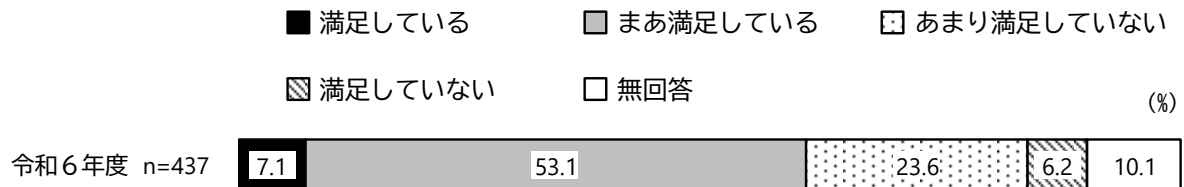


ひきこもりの方への支援について、「自立に向けたきっかけづくり」が47.6%と最も高く、次いで「専門機関での相談」（32.0%）、「友人や仲間づくりの支援」（27.9%）となっている。

10 今後の保健福祉施策について

(1) 川俣町での生活の満足度

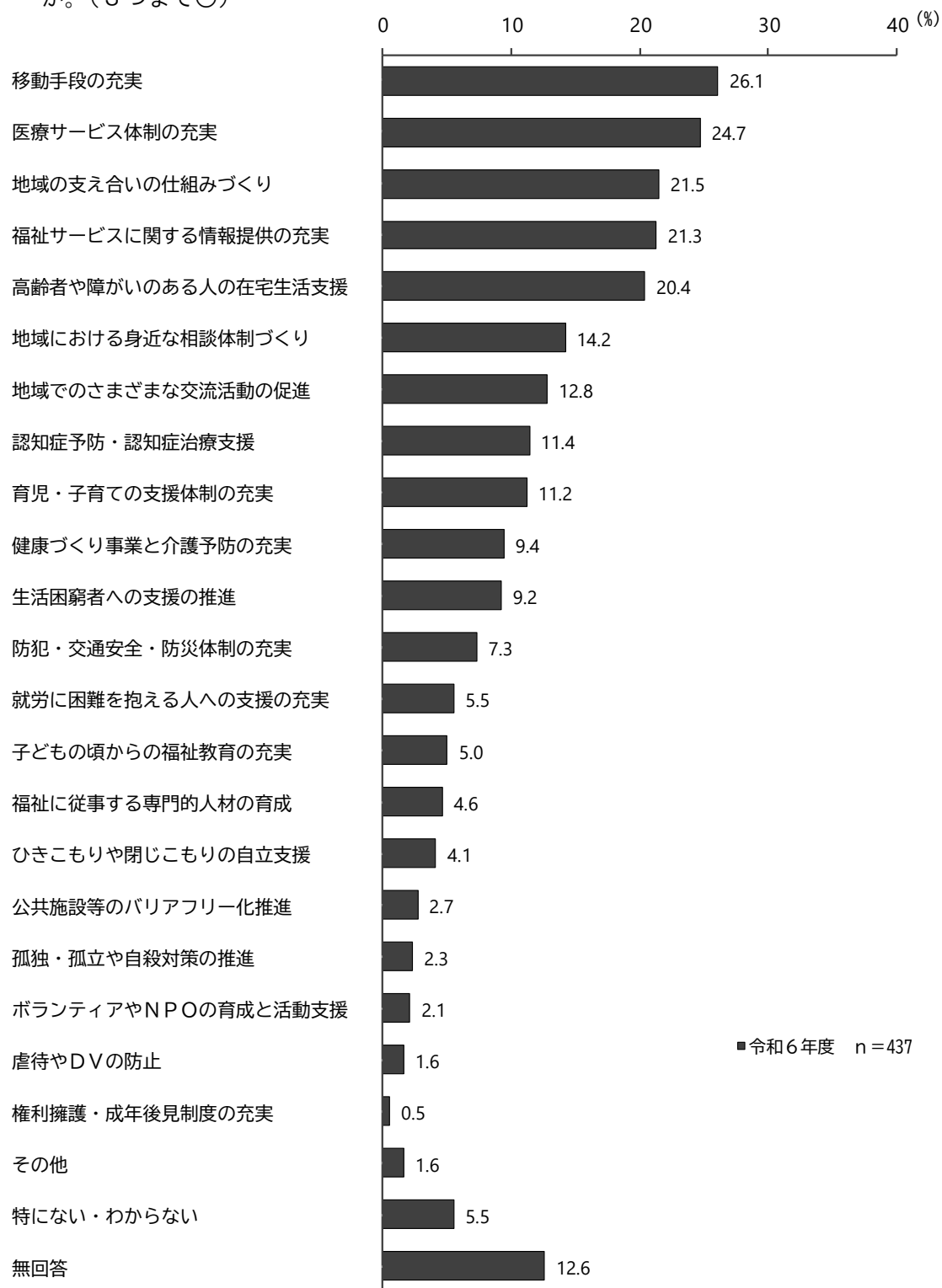
問 42 あなたは、川俣町での生活にどの程度満足していますか。(ひとつだけ○)



川俣町での生活の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足』が60.2%、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた『不満』が29.8%となっている。

(2) 保健福祉施策充実のために重要な取り組み

問 43 川俣町の保健福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。(3つまで○)



保健福祉施策充実のために重要な取り組みについて、「移動手段の充実」が26.1%と最も高く、次いで「医療サービス体制の充実」(24.7%)、「地域の支え合いの仕組みづくり」(21.5%)となっている。

1 1 ご意見等

(1) ご意見等

○ 以下のテーマについて、何かご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

テーマ：地域での助け合い、支え合いのアイデア、自分ができること、地域で取り組むべきこと等

内容	件数	
地域福祉・地域活動について	17	
高齢者支援	7	
交通・施設について	7	
日常生活・自分のこと	5	
アンケートについて	4	
雇用について	3	
町に期待する事・意見	14	
その他	7	
意見数計	64	

町への要望や意見について、「地域福祉・地域活動について」が17件と最も多く、次いで「高齢者支援」「交通・施設について」(7件)となっている。

【主な意見】

1. 地域福祉・地域活動について

- 子供見守り充実していると思うが住民協力で高齢者、障がいのある方も見守ればいい。公民館利用し子育て世代同志・高齢者で家から出られない(車などがなく)人たちがもっと集まれる様なイベントが出来ればいい。各種団体の協力が必要になり負担はふえるが実現できれば。(男性/60歳代/小神地区)
- 各集落ごとの定期的な行政会議取り組みの実現化。問題点や情報交換と取り組みなど、地域での普段からの親ぶくをはかる。チームワークが大切だと思う。年を重ねても、ある程度、体を動かす事が大事だし認知症の予防にもなるし、困った時お互い助け合いの精神誰しもあると思います。なので普段近隣との交流が大事だと役員を通じて痛感しました。(女性/60歳代/小網木地区)
- 若い方が少なく、地域の活動を続けて行けるか不安です。町全体の問題ではあると思いますので、どのようにして行けるか考え実行していただきたいと思います。(女性/70歳代/飯坂地区)

2. 高齢者支援について

- 以前、川俣町の中央に絹蔵と言う、ちょっとした集いの場がありましたが、その時は、高齢者の方々が、好きな時間、好きな日に立ち寄り、おしゃべりや、ランチ、趣味の時間を過ごせた様に聞きました。今は、そんな場所がなくて寂しいと聞きます。1日、1人で居て話す人も居ないと、2～3日、会話しない日もあると。これから、増々、高齢者が多くなるので、是非、又、絹蔵の様な、憩いの場を作って頂きたいと思います。(女性/50歳代/鉄炮町・日和田地区)
- 近所に住むひとり暮らしの方が5月末頃に用事があり、我家に来たので、お茶をしながら雑談をしました。その際「軽度生活援助サービスという制度がある事を聞きました。彼女は数回お世話になっている話です。私は初めて聞く制度であったので、もし該当すれば、ありがたい事と思い早速地域福祉係に行きお願いしました。ひとり暮らしの高齢者という事で、対象となり早速、7月の初めに庭木整理や、草刈りをして頂き、大変ありがたく思った次第です。これも近所の方々と親しくしていたからこそ、わかった事例です。情報の交換は必要な事だと改めて感じました。(女性/70歳代/福沢地区)
- 川俣町は、交通手段が主に“車”となっているのに、高齢者が、自分の都合で移動できないので、いつまでも免許証(車の)を返納できないと思います。“安全”を意識したいのなら、もう少し対応を考えてほしいと思います。子育て支援も大切ですが、高齢者への自宅・在宅支援の充実も考えてほしいです。(女性/50歳代/福沢地区)

3. 交通・施設について

- 高齢者が多いので公共交通があるといいと思う。自治体でバス等走らせてほしい。(男性/20歳代/大網木地区)
- 小学生からは、公園もプールも無いと不満が出ています。友達と安全に遊べる公園や施設も作って欲しいと思います。(女性/50歳代/鉄炮町・日和田地区)
- 子育て支援とあるが、中学生の送迎が無い。公共機関のバスなども充実してない。小学校のバスに朝だけでも乗せて欲しい。病院が少ない。高齢者で若い子が家族にいないければ、通院や買い物に行けない。(男性/40歳代/飯坂地区)

4. 日常生活・自分のことについて

- 現在の場所(アパート)に6年前に引っ越しましたが、全然、近所づきあいがありません。こういう所は、はじめてです。以前にいた所は、ご近所のかかわりがありすぎるくらいだったのですが、全然いまはありません。今は、人とのかかわりがないのでしょうか。しかたのないことですね。だから、老人の孤独死が、川俣町でもあるのでしょうか。私も、一人暮らしなので不安です。(女性/60歳代/宮町・赤坂・中丁地区)

○認知症の親を見ているので大変です。自分達も70代2人で血圧高いので自分のことだけで精一杯です。2人で1人分ですね。食事、買物2人で協力してやっとやっています。これからどうなるのかわかりません。(女性/70歳代/本町地区)

○私は現在専業主婦ですが、実親(80代)の介護と、実家の田畑の手伝い(稲作、草刈り、竹林整備等)と、親ができない部落の作業も代わりにやっています。中学～小学生の3人の子育てもしています。地域の自然を守りたいし、近所に迷惑をかけないために大変でも継続しています。本当はもっと同世代の人達と一緒に活動したいのですが、きっかけがなくもどかしいです。(女性/40歳代)

5. アンケートについて

○このテーマは、これまでのアンケートの中で一番難しいと感じた。社会の変化や意識の変化が大きい。(男性/70歳代/鶴沢地区)

○改めてチェックさせて頂きありがとうございました。(女性/70歳代/小島地区)

6. 雇用について

○小学校の廃校の利用会社がきまり地元若い人の就職が安定して良い方向になると思います。

○地域での助け合い(地域に係る公的委員候補者探しの課題)地域における協働での諸活動に体力と時間の許す限り積極的に取り組んでいる。しかし、今後の課題は企業における定年制の延長や経済的理由等で、例えば地域の団体役員(自治会、交通安全団体など)、公的委員(民生委員、保護司、人権擁護委員など)の引き受け手がない。長年、委嘱を受けているが、健康上や高齢を理由にやめたくとも、自分で後継者を探さないと不可というのが現実であるとの話を時々聞く。(男性/70歳代/福田地区)

7. 町に期待する事・意見について

○私の地域でも当然ながら「高齢・少子・人口減少」は進んでいます。自助・互助努力では、解決できないところまできているのが現状です。政行で20年後・30年後を見据えた体制づくりを望みます。(女性/60歳代/小島地区)

○地域での助け合いについては、この地区については成果を上げていると思うが、今後は高齢化、人口減少により、地域だけでは成り立たなくなるのは明白です。今後十年で心配は現実になると予想します。そうになると、頼れるのは行政しかありません。そうはいつても行政ですら高齢者ばかりとなり、職員の数も減り対応しきれなくなるのも目に見えている。やはり町に若い人が集まる施策を積極的に実施して、今後に備える事が重要なのかな。(男性/60歳代/大綱木地区)

8. その他について

- 最も大切な重要項目だと思いますのでこれからもよろしくお願いします。（男性/70 歳代以上/新中町・仁井町地区）
- 川俣高校をはじめとして、魅力的、特色ある教育を提供するなど地域の就学者に選ばれる学校になるよう学校自身が活動し、川俣で学びたいと思う人たちに町の内外を問わず入学したくなる魅力を作る。（男性/60 歳代/瓦町・五百田・八反田地）
- 地域（自治会）単位で、どのような暮らし方があるのか、考え合いたいものです。例えば、シェアハウスのような、何人かで協同生活できるように、拠点になる人の育成、指導したり支援したりしてくれる人を配置するなど、様々な取りくみを考え合いたいものです。（女性/60 歳代/飯坂地区）

Ⅲ ワークショップ実施結果

1 川俣町地域福祉計画（後期計画）の評価

（１）全体評価

「川俣町地域福祉計画（後期計画）」の基本目標１～４で定めた施策について、地域福祉の担い手からの評価の結果を点数化し、加重平均により、各施策の達成度（点数）を算出し、分析を行った。

達成度（点数）の算出方法

【点数化】

「できていた」：４点

「ややできていた」：３点

「あまりできていなかった」：２点

「できていなかった」：１点

【算出式】

$$\frac{(\text{「できていた」} \times 4 \text{点}) + (\text{「ややできていた」} \times 3 \text{点}) + (\text{「あまりできていなかった」} \times 2 \text{点}) + (\text{「できていなかった」} \times 1 \text{点})}{\text{調査数}} = \text{達成度 (点数)}$$

平均点より低い項目は、下から「防犯体制の充実」「防災体制の充実」「地域で活躍する人材の育成と活用」の順となっている。

平均点より高い項目

↑

↓

平均点より低い項目

(2) 基本目標ごとの評価

各基本目標ごとの評価は以下の通りとなっている。

基本目標1 地域を支える人づくり

施策	回答者数	評価				達成度 (点数)
		できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	できて いなかった	
福祉意識の醸成 (地域福祉に関する普及・啓発、福祉教育の 推進、地域での交流の促進 等)	14人	0件 0.0%	11件 78.6%	3件 21.4%	0件 0.0%	2.8点
地域で活躍する人材の育成と活用 (地域福祉の活動主体の育成・支援 等)	14人	0件 0.0%	1件 7.1%	11件 78.6%	2件 14.3%	1.9点
ボランティア活動等の活性化 (ボランティアの育成支援、ボランティア・N PO活動への支援、企業や事業所の地域福 祉活動の促進 等)	14人	1件 7.1%	5件 35.7%	3件 21.4%	5件 35.7%	2.1点

基本目標2 誰もがつながり合う仕組みづくり

施策	回答者数	評価				達成度 (点数)
		できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	できて いなかった	
地域コミュニティの形成 (行政区・自治会活動等への支援、見守り活 動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進等)	14人	1件 7.1%	8件 57.1%	5件 35.7%	0件 0.0%	2.7点
交流の場や機会の充実 (地域の活動拠点の整備、いきいきサロンの 充実 等)	14人	5件 35.7%	7件 50.0%	2件 14.3%	0件 0.0%	3.2点
防災体制の充実 (地域の防災力の向上、避難行動要支援者の 把握、福祉避難所の充実 等)	14人	0件 0.0%	2件 14.3%	7件 50.0%	5件 35.7%	1.8点
防犯体制の充実 (安心して生活できる地域づくりの推進、地 域の防犯体制の充実 等)	14人	0件 0.0%	1件 7.1%	7件 50.0%	6件 42.9%	1.6点

基本目標３ 誰もが安心して暮らせる環境づくり

施策	回答者数	評価				達成度 (点数)
		できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	できて いなかった	
生活環境の整備 (バリアフリーの推進、移送サービスの充実、 マナー向上に向けた啓発活動 等)	14人	1件 7.1%	5件 35.7%	6件 42.9%	2件 14.3%	2.4点
健康づくりの推進 (健康づくりの普及・推進、健康に関する情 報提供 等)	14人	2件 14.3%	11件 78.6%	0件 0.0%	1件 7.1%	3.0点
福島第一原発事故からの復興 (被災した町民の心身のケア、被災者と地域 との交流の促進、放射能対策の推進 等)	14人	5件 35.7%	7件 50.0%	2件 14.3%	0件 0.0%	3.2点
社会参加・生きがいがづくりの支援 (生涯学習機会の拡大、スポーツ・レクリエー ションの機会の拡大 等)	14人	7件 50.0%	5件 35.7%	1件 7.1%	1件 7.1%	3.3点
支援が必要な子どもへの支援の充実 (困難を抱える子どもや家庭への支援、子ど もの権利擁護・虐待防止 等)	14人	0件 0.0%	5件 35.7%	7件 50.0%	2件 14.3%	2.2点
生活困窮者の支援体制の充実 (生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進 等)	14人	2件 14.3%	6件 42.9%	6件 42.9%	0件 0.0%	2.7点

基本目標４ 地域福祉を推進する連携の体制づくり

施策	回答者数	評価				達成度 (点数)
		できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	できて いなかった	
相談体制の充実 (相談窓口の周知、身近な相談体制の充実、 自殺対策の推進 等)	14人	1件 7.1%	8件 57.1%	5件 35.7%	0件 0.0%	2.7点
情報提供の充実 (情報バリアフリーの推進、地域における情 報提供の推進 等)	14人	1件 7.1%	3件 21.4%	8件 57.1%	2件 14.3%	2.2点
福祉サービスの充実 (成年後見制度の普及、福祉サービス利用支 援の充実 等)	14人	2件 14.3%	6件 42.9%	4件 28.6%	2件 14.3%	2.6点
地域福祉ネットワークの構築 (各種関係機関との連携に向けた支援、社会 福祉協議会との連携の強化 等)	14人	2件 14.3%	9件 64.3%	3件 21.4%	0件 0.0%	2.9点

2 第二次川俣町地域福祉計画における重点課題の検討結果

A グループ（基本目標1）

（1） 重点課題

- 地域で活躍する人材の育成と活用（地域福祉の活動主体の育成・支援 等）

（2） 重点課題に対する主な解決策（考え・意見・アイデア）

【自分や家族でできること】

● 知ること

- ・ 興味を持つ
- ・ 知ることから始める
- ・ 自分には何ができるのか見極める

● 参加する

- ・ 地域の行事に積極的に参加する
- ・ 地域福祉活動へ参加する

● 誘う・増やす

- ・ 花いっぱい運動やクリーン作戦など地域活動に子どもと一緒に参加する
- ・ 一緒に参加しないか声かけをして誘う

【地域（事業者含む）でできること】

● 知ってもらう

- ・ 見学や行事への参加で施設や制度を知る機会の提供
- ・ 事業所と地域とのつながりの機会をつくる

● 開催する

- ・ 地区毎のイベントを開催（企画や運営）
- ・ 楽しい「場面」を増やしていく

● 育てる

- ・ 学校（小・中・高）と連携し、地域活動への学校単位での参加
- ・ 講演会、講習会の開催
- ・ 教育現場へのアプローチ
- ・ 講座の開催（ボランティアなど）

【行政に求める支援】

●知る機会

- ・他の地区での取り組みを知れたり触れることができる場面を提供する
- ・他市町村で活躍している人と関われる場面や視察できる機会をつくる

●継続の支援

- ・活動時の助成を継続（人・物・金・知恵）
- ・ボランティア活動の登録制

●人口を増やす

- ・他市町村から呼び込む
- ・移住の促進
- ・少子化をくいとめる

(3) 検討結果のまとめ（発表内容）

A班においては、「特に重要と考えること」として「地域で活躍する人材の育成と活用」を挙げました。自分や家族でできること、地域でできること、行政に求める支援について、横のつながりも考慮すると良いのではないかと考えています。

自分や家族でできることとしては、地域で活躍することや地域の福祉について知ることが重要であると考えました。知らなければ参加は難しいため、まずは知ることから始めましょうということです。また、それを実現するための機会を提供することも重要です。現在活動している方々が誘い、仲間を増やしていくことが大切です。その中で「私もこういう活動に参加しているがどうだろう」と誘い合い、知ったことから参加するという流れが自然と生まれるのではないかと考えました。

地域でできることについては、特に知ってもらうことが重要です。事業者側も地域福祉の現場について発信し、知ってもらう努力が必要です。自分たちで調べるには限界があるため、事業者側が情報を提供し、発信するシステムを構築することが求められます。施設見学などが最も効果的ですが、コロナ禍では制限があるため、他の方法で発信する機会を設けることが必要です。地域の方々が知ろうとする姿勢と、専門職が発信する姿勢の両方が重要です。

また、参加する場がなければ何に参加すれば良いのか分からないため、地域での活動や集まりを開催することが重要です。知ってもらい、開催しているところに参加することで、仲間を増やし、一緒に活動を開催することができます。開催するためには、やる側の育成も必要であり、資金もかかるため、助成金や行政からの補助が必要です。地域活動に参加する人や運営する人を育てる機会も必要です。

行政に求める支援については、他の市町村や都道府県の事例を参考にすることが有益です。視察などを予算に組んで定期的開催し、実際の活動を目にする機会を提供することが重要です。継続的に活動を行うためには、行政のサポートが必要です。川俣町の魅力を発信し、移住者を増やすことも重要です。人材の育成には、場を提供し、知ってもらい、参加する機会を定期的に設けることが必要です。

(4) ワークシート

ワークシート①		グループ番号：A					
基本 理念	基本目標	施策	評価			検討テーマ (特に重要だ と思うこと)	
			できていた	やや できていた	あまりできて いなかった		できて いなかった
誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた	1 地域を支え る人づくり	福祉意識の醸成 (地域福祉に関する普及・啓発、福祉教育の推進、地域での交流の促進 等) 地域で活躍する人材の育成と活用 (地域福祉の活動主体の育成・支援 等) ボランティア活動等の活性化 (ボランティアの育成支援、ボランティア・NPO活動への支援、企業や事業所の地域福祉活動の促進 等)		3件	1件		
	2 誰もが安心して暮ら せる環境づくり	地域コミュニティの形成 (行政区・自治会活動等への支援、見守り活動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進等) 交流の場や機会の充実 (地域の活動拠点の整備、いきいきサロンの充実 等) 防災体制の充実 (地域の防災力の向上、避難行動要支援者の把握、福祉避難所の充実 等) 防犯体制の充実 (安心して生活できる地域づくりの推進、地域の防犯体制の充実 等) 生活環境の整備 (バリアフリーの推進、移送サービスの充実、マナー向上に向けた啓発活動 等) 健康づくりの推進 (健康づくりの普及・推進、健康に関する情報提供 等)	2件				
	3 誰もが安心して暮ら せる環境づくり	福島第一原発事故からの復興 (被災した町民の心身のケア、被災者と地域との交流の促進、放射能対策の推進 等) 社会参加・生きがいづくりの支援 (生涯学習機会の拡大、スポーツ・レクリエーションの機会の拡大 等) 支援が必要な子どもへの支援の充実 (困難を抱える子どもや家庭への支援、子どもの権利擁護・虐待防止 等) 生活困窮者の支援体制の充実 (生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進 等)					
	4 地域福祉を推進する連 携の体制づくり	相談体制の充実 (相談窓口の周知、身近な相談体制の充実、自殺対策の推進 等) 情報提供の充実 (情報バリアフリーの推進、地域における情報提供の推進 等) 福祉サービスの充実 (成年後見制度の普及、福祉サービス利用支援の充実 等) 地域福祉ネットワークの構築 (各種関係機関との連携に向けた支援、社会福祉協議会との連携の強化 等)					

ワークシート②

グループ番号：A

検討テーマ（特に重要だと思うこと）：地域で活躍する人材の育成と活用

テーマに対する考え・意見・アイデア 地域（事業者含む）でできること			行政に求める支援					
自分や家族でできること 知る 興味を持つ 知ることから始める 自分には何が できるか？ 見きわめる 参加する 地域の行事に 積極的に参加 する 地域福祉活動 へ参加する 地域活動に 参加する 誘う・増やす 花いっぱい運動や クリーン作戦など 地域活動に子供と 一緒に参加する 一緒に参加しないか 声かけ。さそう。			地域（事業者含む）でできること 知ってもらう 施設や制度を知る 機会の提供（見学・ 行事への参加） 事業所と地域との つながりの機会を つくる 開催する 地区毎のイベントを 開催（企画や運営） 「楽しい」場面を 増やしていく 育てる 学校（小・中・高）との 連携（地域活動への学校 単位での参加） 講演会、講習会の開催 教育現場へのアプローチ 講座の開催 （ボランティアなど） 人口を増やす 他市町村から呼び こむ 移住の促進 少子化をくいとめる			知る機会 他の地区での取 り組を知ったこ とができる場面 他市町村で活躍 している人を視 察できる機会を 作る 活躍している人 との関わりの方 法の提供 継続の支援 活動時の助成の継続 （人・モノ・金・知恵） ボランティア活動の 登録制		

Bグループ（基本目標2）

（1） 重点課題

- 地域コミュニティの形成（行政区・自治会活動等への支援、見守り活動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進等）

（2） 重点課題に対する主な解決策（考え・意見・アイデア）

【自分や家族でできること】

●知ること

- ・近所であった良い事、不安な出来事も家族で話す
- ・家族でニュース等について会話し、興味をもつようにする
- ・行政区長や自治会の活動を知る
- ・自分の住んでいる地域を知る

●行動すること

- ・地域の人と会ったら返事がなくても挨拶をすることを続ける
- ・挨拶や声かけをして地域で会う機会を多くつくる
- ・隣近所同士でお茶飲みをする
- ・何事も協力する
- ・ゴミ拾いをしながら散歩する

●参加すること

- ・地域の行事、イベント等に自分や家族も積極的に参加する

【地域（事業者含む）でできること】

●集まる機会を多くする

- ・サロン
- ・花見・芋煮会
- ・公民館活動
- ・趣味やスポーツ
- ・地域全体で行う事業（草刈り・花いっぱい）
- ・地域にある文化財の発信
- ・地域で勉強会
- ・各イベントの開催で地域の子どもから大人まで顔見知りになる

【行政に求める支援】

●行政区を見直す

- ・人口減少等、今までと同様にできない場合も多くなっている
- ・コミュニティを維持できる行政の区割の見直しが必要

●その他

- ・集まる機会を増やし、地域コミュニティ形成を実現するための相談や援助

(3) 検討結果のまとめ（発表内容）

Bグループは、「特に重要だと思うこと」として「地域コミュニティの形成」という主題で話し合いました。まず、家族や自分でできることについて、三つに分けて考えました。

第一に、知ることについてです。自分とその隣の地域、住んでいる地域を知ること、そして行政区長の活動を知ることが、地域コミュニティを形成するために重要であると考えました。また、家族内で近所の出来事について話し合うことも、地域を知る一助となるでしょう。ニュースについて家族で会話を持ち、興味を持つことや、自治会の活動を知ること重要です。

第二に、行動することについてです。例えば、散歩中に動物を連れている方と会話を持つ、地域の方に挨拶をする、ごみを拾いながら散歩をする、回覧板の際に会話をする機会を持つ、隣近所でお茶を飲む機会を作るなど、地域で会う機会を多く作ることが挙げられます。

第三に、参加することについてです。地域の事業や行事、イベントに積極的に参加することが重要です。集まりが面倒に感じることもありますが、自分や家族が積極的に参加することで、友人や知り合いも参加する機会が増えるでしょう。

地域でできることとしては、集まる機会を多くすることが重要です。コロナ禍で参加できないことが多かったですが、現在は状況が改善しているため、花見や芋煮会、地域での勉強会や飲み会などを開催することが考えられます。また、地域の文化財の発信や、趣味を生かしたスポーツなどで集まる機会を多くすることも重要です。これにより、地域の子どもから大人までが顔見知りとなり、コミュニティ形成の近道となるでしょう。

行政に求める支援としては、行政区の見直しが必要です。現在の区割りでは、従来通りの開催が難しくなっているため、コミュニティを維持するための見直しが求められます。また、行政には補助や奉仕、相談や援助の窓口としての役割を果たしてもらいたいと思います。

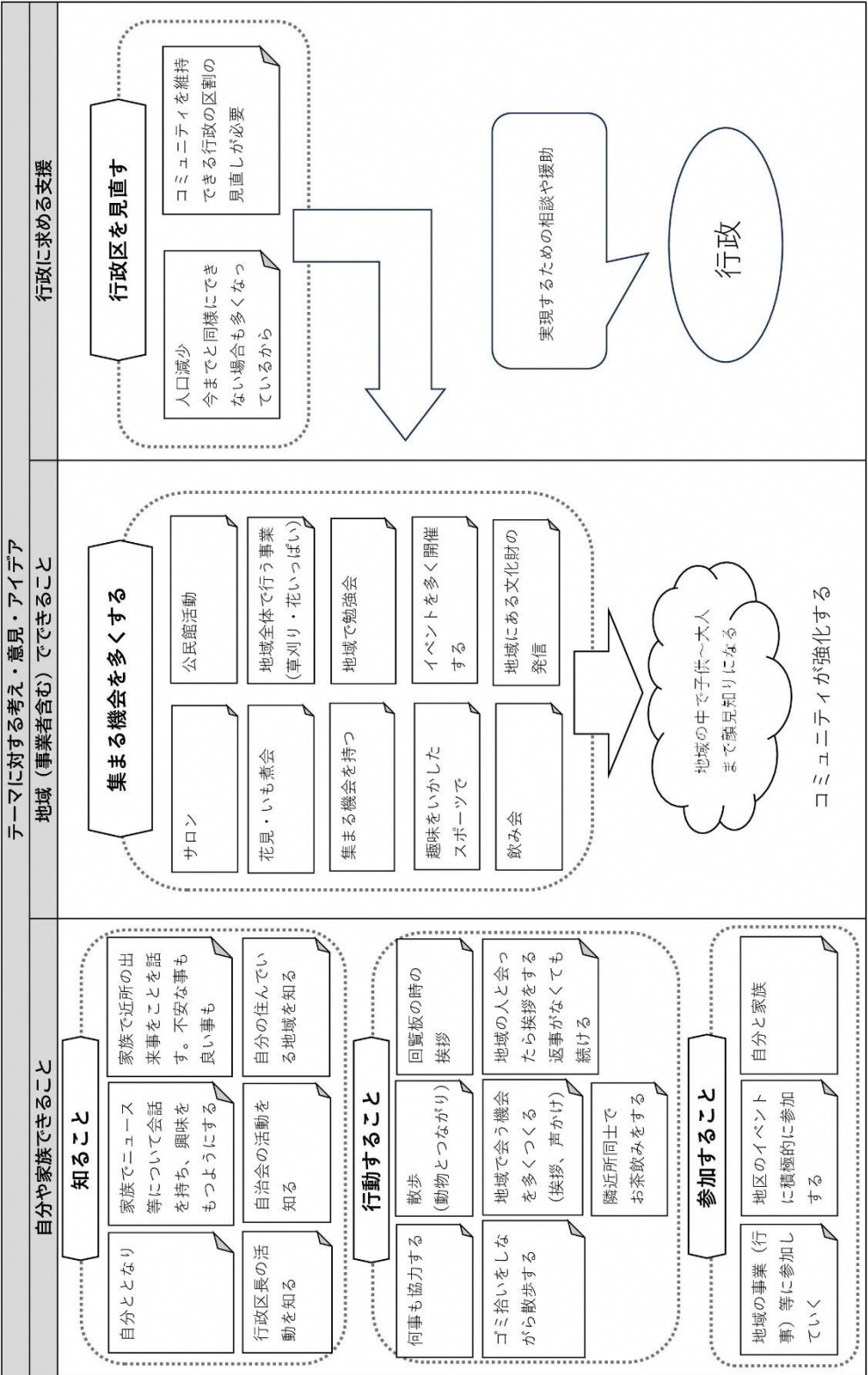
(4) ワークシート

ワークシート①		グループ番号：B				
基本 理念	基本目標	施策	評価			検討テーマ (特に重要だ と思うこと)
			できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	
誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた	1 地域を支え る人づくり	福祉意識の醸成 (地域福祉に関する普及・啓発、福祉教育の推進、地域での交流の促進等) 地域で活躍する人材の育成と活用 (地域福祉の活動主体の育成・支援等) ボランティア活動等の活性化 (ボランティアの育成支援、ボランティア・NPO活動への支援、企業や事業所の地域福祉活動の促進等)		4件		
	2 誰もが安心して暮ら せる環境づくり	地域コミュニティの形成 (行政区・自治会活動等への支援、見守り活動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進等) 交流の場や機会の充実 (地域の活動拠点の整備、いきいきサロンの充実等) 防災体制の充実 (地域の防災力の向上、避難行動要支援者の把握、福祉避難所の充実等) 防犯体制の充実 (安心して生活できる地域づくりの推進、地域の防犯体制の充実等) 生活環境の整備 (バリアフリーの推進、移送サービスの充実、マナー向上に向けた啓発活動等) 健康づくりの推進 (健康づくりの普及・推進、健康に関する情報提供等) 福島第一原発事故からの復興 (被災した町民の心身のケア、被災者と地域との交流の促進、放射能対策の推進等) 社会参加・生きがいづくりの支援 (生涯学習機会の拡大、スポーツ・レクリエーションの機会の拡大等) 支援が必要な子どもへの支援の充実 (困難を抱える子どもや家庭への支援、子どもの権利擁護・虐待防止等) 生活困窮者の支援体制の充実 (生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進等)			4件	
	3 誰もが安心して暮ら せる環境づくり	相談体制の充実 (相談窓口の周知、身近な相談体制の充実、自殺対策の推進等) 情報提供の充実 (情報バリアフリーの推進、地域における情報提供の推進等) 福祉サービス利用の充実 (成年後見制度の普及、福祉サービス利用支援の充実等) 地域福祉ネットワークの構築 (各種関係機関との連携に向けた支援、社会福祉協議会との連携の強化等)		4件		
	4 地域福祉を 推進する連 携の体制づ くり				4件	

ワークシート②

グループ番号：B

検討テーマ（特に重要だと思うこと）：地域コミュニティの形成



Cグループ（基本目標3）

（1） 重点課題

- 生活困窮者の支援体制の充実（生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進 等）

（2） 重点課題に対する主な解決策（考え・意見・アイデア）

【自分や家族でできること】

- 情報収集・気づき
 - ・近所の子どもの身なりなど様子が気になったら声をかける
 - ・学校や近所の人とのコミュニケーションを通して把握する
 - ・安否確認を行う
 - ・食べ物、衣類を分けられるといい

【地域（事業者含む）でできること】

- 孤立をさせない
 - ・活動に誘ってみる（何か気づけるかも）
 - ・サロンの活用
 - ・子ども食堂の開催
 - ・就労支援・勉強会・体験学習
 - ・閉じこもらないように外部との関係を切らないような支援

【行政に求める支援】

- 制度につなげる
 - ・就労支援につなげる
 - ・民生委員の活動を活発に
 - ・学校との連携
 - ・生保につなげる
 - ・民生員が把握し、行政・社協につなげる

(3) 検討結果のまとめ（発表内容）

私たちは、「生活困窮支援体制の充実」というテーマを取り上げました。

自分や家族でできることとして、例えば地域内で歩いている人の身なりが気になったり、その子供が学校での様子が気になったり、安否確認を行うことが挙げられます。また、食べ物や衣服の状況を把握することや、近所の人とのコミュニケーションを通じて、きちんと食事をとれているかを確認することも重要です。これらの結果、情報収集や気づきに繋がると考えました。気になる家族のゴミの量や内容を観察することも、小さな気づきに繋がるでしょう。

地域でできることとしては、閉じこもらないように外部との関係を維持する支援が重要です。サロンの活用や活動への誘い、こども食堂の開催、就労支援勉強会や体験学習の実施も、孤立を防ぐために有効であると考えました。

行政に求める支援としては、制度に繋げることが重要です。就労支援に繋げることや、民生委員の活動を活発にすること、民生委員が把握した情報を行政や社協に繋げることが求められます。また、学校との連携も重要であり、子供を通じて様々な情報を得ることができると考えました。

結果として、具体的な把握方法について疑問を持ち、議論を重ねましたが、地域のネットワークやコミュニティの繋がりが非常に重要であることを改めて認識しました。

(4) ワークシート

ワークシート①		グループ番号：C				
基本理念	基本目標	施策	評価			検討テーマ (特に重要だ と思うこと)
			できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	
誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた	1 地域を支え る人づくり	福祉意識の醸成 (地域福祉に関する普及・啓発、福祉教育の推進、地域での交流の促進 等)		2件	1件	
		地域で活躍する人材の育成と活用 (地域福祉の活動主体の育成・支援 等)			3件	
		ボランティア活動等の活性化 (ボランティアの育成支援、ボランティア・NPO活動への支援、企業や事業所の地域福祉活動の促進 等)	1件	2件		
		地域コミュニティの形成 (行政区・自治会活動等への支援、見守り活動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進 等)	1件	2件		
	2 誰もが安心して暮らす 環境づくり	交流の場や機会の充実 (地域の活動拠点の整備、いきいきサロンの充実 等)	3件			
		防災体制の充実 (地域の防災力の向上、避難行動要支援者の把握、福祉避難所の充実 等)		1件	2件	
		防犯体制の充実 (安心して生活できる地域づくりの推進、地域の防犯体制の充実 等)		1件	2件	
		生活環境の整備 (バリアフリーの推進、移送サービスの充実、マナー向上に向けた啓発活動 等)	1件	2件		
		健康づくりの推進 (健康づくりの普及・推進、健康に関する情報提供 等)	2件	1件		
	3 誰もが安心して暮らす 環境づくり	福島第一原発事故からの復興 (被災した町民の心身のケア、被災者と地域との交流の促進、放射能対策の推進 等)	1件	2件		
		社会参加・生きがいづくりの支援 (生涯学習機会の拡大、スポーツ・レクリエーションの機会の拡大 等)	3件			
		支援が必要な子どもへの支援の充実 (困難を抱える子どもや家庭への支援、子どもの権利擁護・虐待防止 等)		3件		
		生活困窮者の支援体制の充実 (生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進 等)	1件	2件		○
		相談体制の充実 (相談窓口の周知、身近な相談体制の充実、自殺対策の推進 等)	1件		2件	
	4 地域福祉を 推進する連 携の体制づ くり	情報提供の充実 (情報バリアフリーの推進、地域における情報提供の推進 等)	1件	2件		
		福祉サービスの充実 (成年後見制度の普及、福祉サービス利用支援の充実 等)	2件	1件		
		地域福祉ネットワークの構築 (各種関係機関との連携に向けた支援、社会福祉協議会との連携の強化 等)	1件	2件		

ワークシート②

グループ番号：C

検討テーマ（特に重要だと思うこと）：生活困窮者の支援体制の充実

テーマに対する考え・意見・アイデア 地域（事業者含む）でできること			行政に求める支援
情報収集・気づき 歩いている子が気になった（身なり） きちんと食事が摂れているか聞く 学校で身なりが気になる子がいたら教えよう 食べ物、衣服が分けられるといい 近所の人とのコミュニケーションを通して把握する ゴミ出し（ゴミの量）	孤立をさせない とじこもらないよう に外部との関係を きらないような支援 活動に誘ってみる （何か気づけるかも） サロンの活用 子ども食堂の開催 就労支援 勉強会 体験学習	制度につなげる 就労支援に繋げる 民生委員の活動を 活発に！ 学校との連携 生保につなげる 民生員が把握し、行 政・社協につなげる	

Dグループ（基本目標4）

（１） 重点課題

- 地域福祉ネットワークの構築（各種関係機関との連携に向けた支援、社会福祉協議会との連携の強化 等）

（２） 重点課題に対する主な解決策（考え・意見・アイデア）

【自分や家族でできること】

- 困っている人を発見
 - ・日常生活を通してできる範囲で困っている人を発見する
 - ・近隣住民の困りごとに目を向ける
- 相談に乗る
 - ・障がい者に対して相談に乗る
 - ・アドバイスをしあわせて状況にあわせて相談するところを決める
 - ・近所の人からの相談を受けやすい環境をつくる
- 相談窓口等の情報提供
 - ・相談窓口がどこにあるのか情報を提供する
 - ・介護福祉に関する情報を近所へ発信する
- 顔の見える関係づくり
 - ・自分の住む地域の活動への積極的な参加
 - ・業務を通じた顔の見える関係性づくり

【地域（事業者含む）でできること】

- 地元の人と交流する機会をつくる
 - ・地元の人たちとの交流を多くしてもらう
 - ・班や自治会などで気軽に集まれる機会をつくる
- 参加
 - ・お手伝いできる環境をつくる事により障がい者も参加できる
 - ・障がい者に対して理解を示していく
 - ・福祉に関する勉強会などを開催する
- 必要な関係機関につなげる
 - ・専門分野にたけている所に相談し、一緒に支援を行う
 - ・地域の民生委員など行政につなげてくれる人との関係性を密にする
 - ・地域の中で助けが必要な人の洗い出しを行う

【行政に求める支援】

●行政からの支援・助成

- ・サロン・自治会活動の担い手づくりのための助成

●多職種分野との連携

- ・医療・農業・学生と福祉の連携など、他分野との協同推進のバックアップ
- ・川俣町で働きたいと思えるメリット（住まい・賃金など）で福祉人材の確保

●行政からの情報発信

- ・情報の提供や連携の強化をお互いに話し合って決める
- ・活用できる社会資源について情報発信（広報・LINEなど）
- ・行政の相談先がわかるような一覧の作成
- ・広報に載せる福祉情報をわかりやすくする（〇〇課の〇〇係など）

●行政主体の集会

- ・各団体等と施設などが集まる機会を設ける
- ・地域福祉に関する研修や集会の実施（役場・社協・住民の顔が見えるように）
- ・定期的に住民からの意見を吸い上げる集まりの実施（各地区ごとに）

(3) 検討結果のまとめ（発表内容）

私たちDグループは、「地域福祉ネットワークの構築」を検討テーマとしました。

自分や家族にできることについては、まずは困っている人を発見することから始めましょうという意見が出ました。発見した場合には相談に乗り、各相談窓口の情報を発信していければ良いと考えました。そのためには、顔の見える関係づくりが日常的に必要であるという話も出ました。

地域でできることとしては、地域の方と交流する機会を作り、声がけしながら参加していくことが重要です。参加しながら、必要な関係機関に必要な方を繋げていければ良いという意見も出ました。

行政に求める支援としては、助成金の提供が必要です。また、サロンや自治会の活動において担い手づくりが今後のネットワーク構築に必要であると考えました。多職種との連携、例えば医療と福祉、農業と福祉、学生と福祉の連携を進めるために、行政のバックアップが必要です。福祉人材の確保も重要な課題です。行政からの情報発信については、集まりや集会の開催情報を発信し、必要な情報を提供するために行政の力を借りることが必要です。行政主体の集会を開くことで、多くの方が参加しやすくなると考えました。

(4) ワークシート

ワークシート①		グループ番号：D				
基本理念	基本目標	施策	評価			検討テーマ (特に重要だ と思うこと)
			できていた	やや できていた	あまりできて いなかった	
誰もが笑顔で元気に暮らせるまち かわまた	1 地域を支え る人づくり	福祉意識の醸成 (地域福祉に関する普及・啓発、福祉教育の推進、地域での交流の促進 等) 地域で活躍する人材の育成と活用 (地域福祉の活動主体の育成・支援 等) ボランティア活動等の活性化 (ボランティアの育成支援、ボランティア・NPO活動への支援、企業や事業所の地域福祉活動の促進 等)		2件	1件	
	2 誰もが安心して暮ら せる人づくり	地域コミュニティの形成 (行政区・自治会活動等への支援、見守り活動の推進、あいさつ・声かけ運動の促進等) 交流の場や機会の充実 (地域の活動拠点の整備、いきいきサロンの充実 等) 防災体制の充実 (地域の防災力の向上、避難行動要支援者の把握、福祉避難所の充実 等) 防犯体制の充実 (安心して生活できる地域づくりの推進、地域の防犯体制の充実 等) 生活環境の整備 (バリアフリーの推進、移送サービスの充実、マナー向上に向けた啓発活動 等) 健康づくりの推進 (健康づくりの普及・推進、健康に関する情報提供 等)		1件	2件	
	3 誰もが安心して暮ら せる環境づく り	福島第一原発事故からの復興 (被災した町民の心身のケア、被災者と地域との交流の促進、放射能対策の推進 等) 社会参加・生きがいづくりの支援 (生涯学習機会の拡大、スポーツ・レクリエーションの機会の拡大 等) 支援が必要な子どもや家庭への支援、子どもの権利擁護・虐待防止 等) 生活困窮者の支援体制の充実 (生活困窮者の把握と支援、就労支援の推進 等) 相談体制の充実 (相談窓口の周知、身近な相談体制の充実、自殺対策の推進 等) 情報提供の充実 (情報バリアフリーの推進、地域における情報提供の推進 等)		1件	2件	
	4 地域福祉を 推進する連 携の体制づ くり	福祉サービスの充実 (成年後見制度の普及、福祉サービス利用支援の充実 等) 地域福祉ネットワークの構築 (各種関係機関との連携に向けた支援、社会福祉協議会との連携の強化 等)	1件	1件	2件	○

ワークシート②

グループ番号：D

検討テーマ（特に重要だと思うこと）：地域福祉ネットワークの構築

テーマに対する考え・意見・アイデア 地域（事業者含む）でできること		行政に求める支援
自分や家族でできること 困っている人を発見 - 困っている人を発見する（日常の生活を通してできる範囲） - 近隣住民の困りごとに目を向ける 相談に乗る - 障がい者に対して相談に乗る - 言葉の障がいがあり相手に通じない困る場合 - 近所の方からの相談を受けやすい環境をつくる - アドバイスをしながら状況にあわせて相談するところを決める 相談窓口等の情報提供 - 相談窓口がどこにあるのか情報を提供する - 介護福祉に関する情報を近所へ発信する 顔の見える関係づくり - 自分の住む地域の活動への積極的な参加 - 業務を通じた顔の見える関係性づくり	地元の人と交流する機会をつくる - 地元の人たちとの交流を多くしてもいい - 班や自治会などで気軽に集まれる機会をつくる 参加 - お手伝いのできるような環境をつくることにより障がい者も参加する - 障がい者に対して理解を示してくれるようにならなければ？ - 福祉に関する集会（勉強会など）を開催する 必要な関係機関につなげる - 専門分野にたけている所に相談し、一緒に支援を行う - 地域の民生委員など行政につなげてくれる人との関係性を密にする - 地域の中で助けが 필요한人の洗い出しを行う	行政からの支援・助成 - サロン・自治会活動の担い手づくりのための助成 多職種分野との連携 - 医療・福祉の連携 - 農業・福祉の連携 - 学生・福祉の連携 - 他分野との協同推進のバックアップ - 福祉人材の確保（川俣町で働きたいと思えるメリット住まい・賃金など） 行政からの情報発信 - 情報の提供や連携の強化をお互いに話し合って決める - 活用できる社会資源について情報発信・広報・LINEなど - 広報に載せる福祉情報をわかりやすくする（○○課の○○係など） 行政主体の集会 - 各団体等と施設など集まる機会を設ける - 地域福祉に関する研修や集会の実施（役場・社協・住民の顔がみえるように）（各地区ごとに） - 定期的に住民からの意見を吸い上げる集まりの実施

Ⅳ オンライン意見箱実施結果

1 意見集

回答者（女性・50歳代）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●地域でのつながりを大切にしたい温かい町。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

・地域での行事にはなるべく参加する。

【地域（事業者含む）でできること】

・地域の事業が維持できるよう事業の見直しや会合のやり方を検討する。

【行政に求める支援】

・地域での事業が維持できるよう、費用面の補助をする。

回答者（女性・60歳代）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●町、体育館に、冷暖房を付ける。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

・日頃～体づくりや、健康維持の為、町体育館を利用する。

【地域（事業者含む）でできること】

・スポーツや、イベントで利用する。

【行政に求める支援】

・利用したいが、夏は暑すぎ、冬は寒すぎで、怪我や事故が心配です。

回答者（男性・40歳代・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 共働きでも、安心、安全を保った無料学童施設事業。
- アミューズメント遊戯施設を開拓。
（薬局、スーパー、ホームセンターとかではなく）ラウンドワンみたいな、子供大人で遊べる事業は住み込む時に参考になります。
- TSUTAYA 再開願いたいです。非常に困っています。過疎化、文学低下の原因になります。
- ドトールみたいなカフェやマクドナルド、ケンタッキー、ドミノ・ピザ、ガストなどのレストランチェーン店、牛丼チェーン店など進出していただくべきかと思います。
- 学校を減らすのではなく増やすべきだと思います。消滅都市に自分が選択してしまうことになります。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・ SNS サイトでの発信。
- ・ 売り込む指針修正。
- ・ 若者を育てていく声をあげる。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・ 昔からの川俣町の風土を1度見直す。

【行政に求める支援】

- ・ 昔からの川俣町の風土を1度見直す。
- ・ 前問に対しての実施（企業へ呼びかけるのも含めて）

回答者（男性・70歳代以上・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 町民の要望、声が届き反映される町になる事を願う。以前年間行事カレンダーの様式の変更を要望しましたが何経過、進展もなく使い難いカレンダーのままで要望は無視。もう一度協議する事を願い町民にやる気の届く町政を望んでいます。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・直接話すことも不可では無いので町民に届く町政を望んでいます。

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

- ・町民の要望が届く町政を望んでいます。

回答者（記載なし）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

● 静かな町、自然のある町。子供を蔑ろにしない町。

無料で気軽に人が集まれる絹蔵のような場所が必要。

子供が減ってはいるが、いなくなったわけではなく公園を高齢者向けに整備し直して使えなくなってしまうたりしないで欲しい。

子供が集まれる場所がない。特に屋内になると公民館やコンビニ位しかなく、町の外へ出たくてもバスが高すぎて遊びになんて行けない。

震災後の放射能を減らす工事をあちこちでしたので環境が変わった。のどかな風景はもうなく、コンクリート、アスファルトばかりで自然のない田舎は不便だけで人が集まらないと思う。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・ 周りを綺麗にしてできるだけ環境を壊さないようにする。家庭でゴミを減らしたり外で薬品を使ったりしない。水の浄化に高負担になるものを流さない。植物の手入れをするなど。子供を見かけても嫌な顔をしない。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・ 最近はマシになってきているが、人を雇わずに行う、近隣住民に半ば強制するクリーン作戦や募金型集金をやめた方がいい。皆働いて疲れているところにそういったものを強制されるのが嫌で若い人も出ていってしまう。
- ・ 数十年後を考えずにあちこちやたらと整備しない方がいい。危険な場所や普段使われていた場所の補修は必要だが、自然のままで成り立っていたものに人口のものを入れてしまうとなかなかもとには戻せず、古くなって危険が増す度に補修工事を入れないといけなくなり、未来にお金を使わせるようになってしまう。

【行政に求める支援】

- ・お祭りもなくなってきて、子供も気軽に集まれるようなイベントも必要。大人が楽しめるイベントに子供も来れるではあまり意味がない。子供があまり集まらなかったとしても、誰も来ないからと少人数の子供を居ないことにしたりしないで欲しい。10年以上前に子供の遊ぶ場所がないと保護者たちが町に訴えたとき、学校があるから必要ないと聞いてもらえず、結果ニュースで消える町に名を上げるほど次世代が居なくなってしまった。また、ごみの分別の指導も定期的に行って欲しい。ポスターもあるが現在売られている商品は多様な為、分別に困り全て燃えるごみで出している人が多い。また高齢者になるとそもそもゴミを自力で出すのもやっとで、怒るのではなくどうやったら改善できるかも考えて欲しい。

町の深夜の街灯が明るすぎて、部屋が明るくなり寝づらくなった人もいる。

町内放送もやまびこでよく聞こえないし、音の近くに住んでいる人は、うるさくて困っているが諦めているようだ。

回答者（女性・50歳代・本町地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●静かで交通の便が良く年配の方が安全に暮らせる街。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

・近所に住んでいる一人暮らしの年配の方を気かけ声をかける。

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

回答なし

回答者（女性・50歳代）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●人と人が支え合って生きていける町を作れたら素晴らしいと思います。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・笑顔であいさつをする。
- ・感謝の気持ちを忘れない。
- ・日常の中で困っている人がいたら、声をかけて支え合える気持ちを忘れずに生活をする。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・障害者や高齢者のシェアハウスの設立。
- ・往診メインの診療所の設立。
- ・使用していない田畑を利用して、ドッグランや猫カフェのような障害者雇用もできる施設の設立。

【行政に求める支援】

- ・高齢者や障害者に優しさのある支援。
- ・川俣町だから出来る事に目を向けた支援。

回答者（男性・70歳代以上・飯坂地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●今以上の福祉は、望まない。

介護保険料が、高くなり、若い世代に負担は残せない。特老、老健の負担が増加。

自己負担を増やすか、在宅介護を町をあげて、応援しないと、現在の、役場職員 30%、が町外に居て、安い保健料から、定年退職して、町に移住者いると思いか？

職員の町住在は、不可欠。

職員は、町民の生命と、財産を守る。が使命。代わりは、いくらでも居るので、すぐに辞めてください。

10年後は、どう観ても村の規模。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

回答なし

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

回答なし

回答者（20歳代・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 老若男女、誰一人不自由のない社会になって欲しい。
- 働く場所、買い物する場所、交通(移動手段)、娯楽を楽しむ場所など川俣町で全て簡潔できるような活気あるまちづくりをして欲しい。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・川俣町で買い物をするなど経済をまわす協力をする。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・あつたら便利なお店やわくわくするようなイベントなどの催し物を増やして欲しい。

【行政に求める支援】

- ・イベント企画を考えるために、町民と意見交換したりする。
- ・発言しやすい投書ボックスの設置。
- ・他の市町村の良いところをお手本に盛り上げる工夫をする。

回答者（男性・40歳代・福沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

回答なし

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

回答なし

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

- ・独身者を減らし人口を増やすために、気軽に参加出来る婚活パーティーなり、出会いの場を作る

回答者（30歳代・宮町・赤坂・中丁地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 福祉は様々な年代の人がいてこそ成り立つと思います。
- 新しい文化と昔からの文化の共存が、町民にとっても外部の方から見ても魅力的だと思います。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・文化財保護のための寄付金などを個人でもできたら嬉しいです

【地域（事業者含む）でできること】

- ・文化財保護のための寄付イベントなどをしてもらえたら嬉しいです

【行政に求める支援】

- ・川俣町の保有する文化財保護を、町を上げてやって欲しいです。とくに春日神社の修復をして、常駐の神主さんにきていただきたいです。

回答者（女性・70歳代以上・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●誰もが生活に困らない社会

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・挨拶は気持ちよく
- ・ゴミ出しなどのルールを守る

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

- ・一人暮らしは大変心細いので行政の助けが今以上に必要

回答者（男性・30歳代・新中町・仁井町地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●理想は、バランスのとれた自助共助公助である町であって欲しい。

福祉力があるだけでなく、養育にも力を入れる町づくり。高齢者、障害者、子供だけではなく、青年壮年者も元気に暮らせる町を。支えるのは若者で、若者にも還元される町づくりを。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・金銭面的にも豊かな生活を望む。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・介護予防教室(介護者の交流と教育も含む)の運営計画実行。
- ・認知症サロンの運営計画実行。
- ・障害当事者の会運営計画実行。
- ・育児相談会の運営実行計画。
- ・低価格で参加ができる婚活パーティー、若者の集いを運営計画実行。
- ・全世代が参加出来るイベントの運営実行計画。

【行政に求める支援】

- ・無料バス、または無料タクシー支援。
- ・医療費割合負担を一部町でももつ。
- ・介護保険料割合負担を一部町でももつ
- ・町民税の減税。

回答者（女性・30歳代・本町地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●みんなでお互いを思いやり、助けあえる町

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・町のイベントに参加したり町内で買物、食事をしたりして人と人との繋がりを作ること

【地域（事業者含む）でできること】

- ・イベント開催や参加

【行政に求める支援】

- ・イベントを企画、実行するためにはアイデアやアドバイスそして人手が必要なので全てにおいてのサポート

回答者（男性・70歳代以上・飯坂地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 全て、役場の中に有る。町内外からの、方々が居る。いろいろな所に住んでいる訳だから、それを、調査して、アンケートをとり、何が出来るか、町民に聞く。のが、一番はじめにやるべき。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

回答なし

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

回答なし

回答者（記載なし）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

回答なし

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

回答なし

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

- ・ 高校生のバス代負担軽減の為に福島駅まで、梁川町までの送迎バスの運行。

回答者（男性・60歳代・小神地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、どういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●結のせいしんで、あたたかい、まちづくり

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

・おもいやりの、こころ

【地域（事業者含む）でできること】

回答なし

【行政に求める支援】

回答なし

回答者（女性・40歳代・小神地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

- 世間体を気にせず、協力し合える関係を築ける街。
- 子どもたちが楽しく遊べる、活気のある街。
- 高齢者になっても、働ける場所や環境がある街。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・繋がりを大切にし、挨拶から少しの会話を心がける。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・交流会を定期的開催し、地域の方が顔を合わせる機会を作る。（年齢層に分けて開催しても良いと感じます）
- ・私は訪問型の介護美容を始めたところです。独居の方の訪問見守り美容というものを展開していく予定です。まちづくりのお手伝いをしたいと思っています。

【行政に求める支援】

- ・独居で外に出られない方に対しての、美容サービスのため、貧困な方への助成金や補助金などの構築。

回答者（女性・40歳代・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●子供の笑顔溢れる町にしてほしい。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・地域の人達と挨拶やごみ拾いなど積極的にする。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・イベントを増やしてほしいが、同じ人ばかりが出ていくことになるので新しいイベントをしたい。

【行政に求める支援】

- ・小さいコミュニティのイベントを開催する際、地元住民の役場関係者が積極的になってほしい。

回答者（女性・30歳代・鶴沢地区）

（１） あなたが思う理想の福祉のまちづくり

Q 川俣町が10年後も『誰もが笑顔で元気に暮らせるまち』であるために、こういった街であつたらよいと思うか、あなたが思う理想の福祉のまちづくりについて、ご自由にお答えください。

●大人から子どもまで交流ができ、お互いの顔が見えるまちづくり。

（２） 川俣町が理想の街になるために取り組む必要があること

Q 川俣町が（１）でお答えいただいた街になるために、「自分や家族」「地域（自治会や団体、事業者など）」「行政」のそれぞれが取り組む必要があることについて、ご自由にお答えください。

【自分や家族でできること】

- ・隣近所で会った時は、あいさつをする。
- ・地域のイベント等へ参加する。
- ・子どもを屋外で遊ばせたい。

【地域（事業者含む）でできること】

- ・大人、子ども、地域がつながり、交流が出来る場をつくる。

【行政に求める支援】

- ・地域の人の顔が見え、つながれる場の支援。
- ・子ども達が交流、遊べる場の環境整備。夏頃から利活用の関係で、子ども達が富田幼稚園で遊ぶことが出来なくなりました。小さい子でも遊べる遊具が多くあり、安心して遊ばせていましたが、今は近隣にはないような状況です。また富田幼稚園の近くの団地にブランコ等がありますが、何年も塗装は剥げたままで改修されることなく、担当課で管理・整備されていない状況で、正直子どもを遊ばせたくありません。少子化が進み川俣町のこどもの数が減ってはいますが、屋外で親も子も安心して遊べる場、学べる場の整備をしてもらいたいです。

V

使用した調査票

1 地域福祉計画策定のためのアンケート調査 調査票

I. あなたご自身について

問1 あなたの性別はどちらですか。(どちらかに○)

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)

- 1 20歳代 3 40歳代 5 60歳代
2 30歳代 4 50歳代 6 70歳代以上

問3 あなたは川俣町に何年住んでいますか。(ひとつだけ○)

- 1 50年以上住んでいる 4 5～9年住んでいる
2 20～49年住んでいる 5 住みはじめて5年に満たない
3 10～19年住んでいる

問4 あなたが暮らしている住宅の形態は次のどれに当てはまりますか。(ひとつだけ○)

- 1 持家(一戸建て) 3 借家(一戸建て) 5 寮
2 持家(集合住宅) 4 借家(集合住宅) 6 その他()

問5 あなたが住んでいる地区は次のどれですか。(ひとつだけ○)

- 1 新中町・仁井町地区 6 鶴沢地区 11 飯坂地区
2 鉄砲町・日和田地区 7 小神地区 12 大綱木地区
3 瓦町・五百田・八反田地区 8 稲沢地区 13 小綱木地区
4 宮町・赤坂・中丁地区 9 稲田地区 14 山木屋地区
5 本町地区 10 小島地区 15 その他()

問6 あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ○)

- 1 会社員・団体職員 6 無職(年金生活者など)
2 公務員 7 学生
3 自営業(商店、企業経営など) 8 パート、アルバイト、フリーター
4 農業者 9 専門的職業(医師、看護師、弁護士、会計士、芸術家など)
5 家事専業 10 その他()

「川俣町地域福祉計画」策定のための

アンケート調査 ご協力をお願い

町民の皆さまには、日ごろから町政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このたび、川俣町では、誰もが住み慣れた地域でいきいきと安心して暮らせるまちづくりの実現のため、「川俣町地域福祉計画 後期計画」を策定いたしました。

本計画の策定にあたりましては、町民の皆さまの多様な意見や地域の実情等を踏まえ、町民、関係機関・団体と行政が連携し、地域住民がお互いに助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりをめざしています。

このアンケート調査は、その取り組みの一環として実施するもので、福祉や地域生活、日々の生活の課題等に対する町民の皆さまの考え方やご意見をお聞きするものです。お答えいただいた内容は、本計画策定の貴重な資料とさせていただきますとともに、今後の福祉施策に役立てていきたいと考えています。

なお、今回の調査は、満20歳以上の町民の皆さまの中から無作為に1,000人を選ばせていただきました。調査票は無記名で、ご記入いただいた内容は統計処理を行いますので、回答者が特定されることや、個々の調査票を公開することは一切ありません。

つきましては、この趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年7月

川俣町長 佐藤 全 正

ご記入にあたってのお願い

○この調査は、川俣町が実施するものです。

○この調査票には、お名前・ご住所を記入しないでください。

○回答の記入は、あて名の方ご本人をお願いします。ご本人の記入が困難な場合は、ご家族の方などがご本人のご意向をくみ取ったうえで、代理で回答を記入してください。

○回答は、あてはまる番号に○をつけてください。また、その他の記入欄については、その理由や内容をできるだけ簡潔に記入してください。なお、選択肢のいずれにも該当しない場合は、選択肢「その他」に「なし」とご記入ください。

○記入いただいた調査票は、8月7日(金)までに、同封の封筒に入れて(切手を貼らずに)郵便ポストに投函してください。ご協力の程よろしく申し上げます。

【調査に関するお問い合わせ先】

川俣町役場 保健福祉課 地域福祉係

電話：024-566-2111 (代表) FAX：024-566-2438

問7 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

- 1 ひと暮らし世帯 3 親と子の2世代世帯 5 その他 ()
2 夫婦のみの世帯 4 親と子と孫の3世代世帯

問8 あなたご自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 乳児 (1歳未満の幼児) 4 中学生・高校生 7 障がいのある人
2 乳児を除く小学校入学期前の幼児 5 妊娠している人 8 介護を必要とする人
3 小学生 6 65歳以上の人 9 いずれもない

Ⅱ. 「福祉」(心豊かに幸せな生活を営むための取組み)について

問9-(1) あなたは「福祉」に関心をおもちですか。(ひとつだけ○)

- 1 とても関心がある 2 ある程度関心がある 3 あまり関心がない 4 全く関心がない

(問9-(1)で「1」「2」を選んだ人に (問9-(1)で「3」「4」を選んだ人に
おたずねします。 おたずねします。)

問9-(2) 特に関心のある分野はどれですか。

(ひとつだけ○)また、その理由をお

答えください。

- 1 児童福祉 (子育てなど) ()
2 障がい者福祉 (障がい者介護など)
3 高齢者福祉 (高齢者介護など)
4 地域福祉 (地域での受け合い活動)
5 社会福祉 (福祉全般)
6 その他 ()

理由(簡潔に記入してください)

- 1 今のところ自分にはあまり関係がないから
2 「福祉」のことがよくわからないから
3 その他 ()
4 特に理由はない

問10 あなたはこの調査に回答する前から「地域福祉」という言葉を知っていましたか。

(ひとつだけ○)

- 1 内容まで知っていた 3 知らなかった
2 聞いたことはあるが、内容まで知らなかった

問11 あなたやあなたのご家族は、これまで「福祉サービス」を利用する際に、不都合に感じたことや不満に思ったことはありませんか。(ひとつだけ○)

- 1 不都合や不満を感じたことがある 問12へ
2 不都合や不満を感じたことはない 問13へ
3 福祉サービスを利用したことがない 問14へ

問12 「福祉サービス」のどのようなことに不都合に感じたり不満に思ったりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 利用にあたりどこに相談したらよいかわからなかった
2 相談窓口の対応が悪かった
3 相談窓口がいくつもあってわからなかった
4 利用申し込みの方法がわからなかった、煩雑であった
5 どのようなサービスがあるかわからなかった
6 どのサービスを利用したらよいかわからなかった
7 提供されるサービスの質が悪かった
8 その他 ()

問13 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 町役場の窓口や広報紙 6 近所の人・知人・友人
2 民生委員・児童委員 7 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ
3 社会福祉協議会 8 インターネット・SNS
4 地域包括支援センター 9 その他 ()
5 居宅介護支援事業者 (ケアマネジャー) やホームヘルパー

問14 「福祉サービス」について、どのような情報を知りたい、またはどのような情報を充実してほしいと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 子育てについてのサービス情報
2 サービス提供事業者とその事業者が提供するサービス内容の情報
3 高齢者や障がいのある人についてのサービス情報
4 健康づくりについてのサービス情報
5 趣味や生きがいに関する講座などの情報
6 自治会など地域のコミュニティや活動に関する情報
7 ボランティア活動やNPOなどの活動情報
8 悩み事の相談会などに関する情報
9 その他 ()

問 15 「福祉サービス」を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係はどのようにあるべきだと考えていますか。(ひとつだけ○)

- 1 行政の責任で充実すべき
- 2 行政が主導で行うが、対応しきれない部分は住民が手伝う
- 3 行政と住民が対等に協力し合うべき
- 4 住民が主導で行うが、対応しきれない部分は行政が支援する
- 5 わからない
- 6 その他 ()

問 16 川俣町は子どもや高齢者、障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(それぞれひとつだけ○)

	とても暮らしやすいと思う	まあまあ暮らしやすいと思う	あまり暮らしやすいと思う	全く暮らしやすいと思わない	わからない
①高齢者にとって	1	2	3	4	5
②子どもにとって	1	2	3	4	5
③障がいのある人にとって	1	2	3	4	5

問 17 あなたは、次の団体や機関、制度等を知っていますか。(それぞれひとつだけ○)

	知っている	知っている程度	あまり知らない	全く知らない
①民生委員・児童委員	1	2	3	4
②川俣町社会福祉協議会	1	2	3	4
③成年後見制度	1	2	3	4
④地域の防災活動や訓練	1	2	3	4
⑤消防団や自主防災組織	1	2	3	4
⑥地域包括支援センター	1	2	3	4

Ⅲ. 「地域」との関わりについて

問 18 あなたが考える「地域」の範囲をお答えください。(ひとつだけ○)

- 1 隣近所
- 2 自治会
- 3 小学校区
- 4 中学校区
- 5 川俣町全地域
- 6 その他 ()

問 19 あなたは、現在住んでいる地域に愛着がありますか。(ひとつだけ○)

- 1 大いにある
- 2 ある程度ある
- 3 どちらともいえない
- 4 あまりない
- 5 全くない

問 20 あなたは、ふだん近所の人との程度の付き合いをされていますか。(ひとつだけ○)

- 1 近所の仲の良い人によく家を行き来している
- 2 会話は親しく話をする人がいる
- 3 あいさつ程度の関係の人がほとんどである
- 4 近所付き合いはほとんどしていない

問 21 あなたは、現在住んでいる所に住み続けたいと思いますか。(ひとつだけ○)

- 1 これからも住み続けたい
- 2 町内の別の場所を探したい
- 3できれば他の市町村に移りたい
- 4 わからない

問 22 あなたは、暮らしの中で相談や助けが必要なとき誰に頼みたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 家族・親戚
- 2 近所の人
- 3 知人・友人
- 4 職場の人
- 5 医療機関の医師
- 6 民生委員・児童委員
- 7 社会福祉協議会
- 8 地域包括支援センター
- 9 町役場の窓口や職員(保健師等)
- 10 その他 ()

問 23 あなたの身近な地域には、地域住民が取り組むべき課題や問題としてどのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 青少年の健全育成
- 2 母子家庭や父子家庭の子育て支援
- 3 共働き家庭の子育て支援
- 4 乳幼児期の子育て支援
- 5 高齢者の社会参加や生きがいづくり
- 6 障がいのある人の社会参加や生きがいづくり
- 7 高齢者世帯や障がいのある人の生活支援
- 8 障がいのある人への生活支援
- 9 子どもや高齢者、障がいのある人などへの虐待対策
- 10 生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み
- 11 防犯や防災など地域の安全を守ること
- 12 近所でのコミュニティ・つながりの強化
- 13 その他 ()

問 24 日常生活の中で起こる問題に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。

(ひとつだけ○)

- 1 自分たちの生活に関わることから、できるだけ住民同士で協力して解決したい
- 2 地域のことに熱心な人たちが考えてくれるので、その人たちに任せておきたい
- 3 行政に解決してもらえらるように、積極的に要求していきたい
- 4 その他 ()

問 25 隣近所に困っている人がいたときに、あなたが「手助けしてほしい」と思うことは、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 安否確認の声掛け
- 2 日常の話し相手
- 3 買い物の手伝い
- 4 ゴミ出し
- 5 食事の手助け (差し入れなど)
- 6 庭の草刈りや水やり
- 7 冬期間の除雪 (道路の雪はき、屋根の雪下ろし)
- 8 通院などの外出の手伝い
- 9 冠婚葬祭の手伝い
- 10 高齢者等の介護・介助
- 11 子ども・高齢者・障がいを持つ人などの見守り
- 12 保育園の送迎
- 13 短時間の子ども預かり
- 14 子どもを持つ親の不安や悩みの相談
- 15 子育て中の親同士の仲間づくり
- 16 災害時などの手助け
- 17 その他 ()
- 18 特になし
- 19 わからない

問 26 あなたやご家族が困っていることで、隣近所の人「手助けしてほしい」と思うことは、どのようなものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 安否確認の声掛け
- 2 日常の話し相手
- 3 買い物の手伝い
- 4 ゴミ出し
- 5 食事の手助け (差し入れなど)
- 6 庭の草刈りや水やり
- 7 冬期間の除雪 (道路の雪はき、屋根の雪下ろし)
- 8 通院などの外出の手伝い
- 9 冠婚葬祭の手伝い
- 10 高齢者等の介護・介助
- 11 子ども・高齢者・障がいを持つ人などの見守り
- 12 保育園の送迎
- 13 短時間の子ども預かり
- 14 子どもを持つ親の不安や悩みの相談
- 15 子育て中の親同士の仲間づくり
- 16 災害時などの手助け
- 17 その他 ()
- 18 特になし
- 19 わからない

IV. 地域活動やボランティア活動などについて

問 27-(1) あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等について、取り組んでいますか。(ひとつだけ○)

- 1 現在、継続的に取り組んでいる
- 2 たまに、取り組むことがある
- 3 取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない
- 4 取り組んだことはない
- 5 取り組むことができない

問 27-(3) ^

(問 27-(1) で「1」「2」「3」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(2) どんな地域活動やボランティア活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 自治会の活動
- 2 婦人会の活動
- 3 子ども会の活動
- 4 老人クラブの活動
- 5 PTAの活動
- 6 子育てサークルの活動
- 7 スポーツ団体の活動
- 8 趣味等のサークル活動
- 9 ボランティア活動
- 10 社会福祉協議会の活動
- 11 NPO※活動
- 12 その他 ()

※NPO: 民間の非営利組織のことで、政府・自治体や企業には含まれず、利益追求のためではなく、社会的使命(ミッション)の実現を目的として自立的に活動する組織・団体。

(問 27-(1) で「4」「5」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(3) 活動していない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

- 1 自治会等の組織に入っていない
- 2 勤務などの都合で機会がない
- 3 参加方法がわからない
- 4 時間がない
- 5 興味がない
- 6 経済的な負担が大きい
- 7 家族の理解が得られない
- 8 体調がすぐれない
- 9 一緒に活動する仲間がいない
- 10 わずらわしい
- 11 その他 ()

(問 27-(1) で「4」「5」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(4) どのような条件であれば、活動・参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

- 1 活動情報の提供がある
- 2 友人等といっしょに参加できる
- 3 身近なところで活動できる
- 4 活動時間や曜日が自由
- 5 気軽に参加できる
- 6 適切な指導者やリーダーがいる
- 7 特技や知識が活かせる
- 8 身体的な負担が少ない
- 9 経済的な負担が少ない
- 10 その他 ()

問 28-（1）あなたは、今後、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に、どの程度取り組んでいきたいと考えていますか。（ひとつだけ○）

1 積極的に、取り組んでいきたい	4 あまりの取り組みたくない
2 できるだけ取り組んでいきたい	5 取り組むことができない
3 機会があれば、取り組んでもよい	6 取り組むつもりはない

（問 28-（1）で「1」「2」「3」を選んだ人におたずねします。）

問 28-（2）あなたが今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等はありますか。（3つまで○）

1 地域を元気にする活動（行政区・自治会での交流活動など）
2 子育てを支援する活動（子育て交流会や児童の一時預かりなど）
3 高齢者を支援する活動（家事援助、話し相手、見守り・声かけ、外出付き添いなど）
4 障がいのある人を支援する活動（手話、点字、要約筆記、軽介助、外出付き添いなど）
5 児童の健全育成の活動（スポーツの指導、子ども会の活動など）
6 特技や趣味を活かした交流活動（手芸、調理、農作業、スポーツ、外国語、パソコン、陶芸など）
7 周辺環境を整備する活動（道路・公園の清掃、リサイクルなど）
8 地域の安全を守る活動（防犯パトロール、子どもの見守りなど）
9 災害時の支援などの活動（物資の寄付、復興支援、災害時要援護者の見守りなど）
10 その他（ ）

問 29 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで○）

1 地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする
2 地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する
3 地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う
4 ボランティアリーダーや福祉活動に関わる人を育成する
5 福祉活動の相談・指導を担当する専門職員の充実を図る
6 困っている人と、支援できる人との調整を図る人材を育成する
7 困っている人や、助け合いの場や組織についての情報を得やすくする
8 介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う
9 学校教育や社会教育での福祉教育を充実する
10 その他（ ）

V. 災害時の助け合いについて

問 30-（1）災害などの緊急時に、周りに高齢者や障がいのある人などがいた場合、可能な範囲でその人の避難等の手助けができますか。（ひとつだけ○）

1 できる	2 難しい	3 わからない
-------	-------	---------

（問 30-（1）で「1」を選んだ人におたずねします。）

問 30-（2）あなたにできる手助けはどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1 避難情報が発令されたときに伝えることができる
2 自分が避難する際に声かけすることができる
3 高齢者や障がいのある人の支援者や福祉サービス事業所へ連絡することができる
4 避難所へ一緒に避難する手伝いができる
5 避難所へ避難できない場合、ご自宅の2階などへ一緒に避難できる
6 災害が発生した際に安全確認ができる
7 飲料水や支援物資等の運搬ができる
8 その他（ ）

（問 30-（1）で「2」「3」を選んだ人におたずねします。）

問 30-（3）手助けするのが難しい又はわからない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1 自分や家族の中に避難の支援が必要となる者がおり、他の人の支援は難しい
2 自分や家族の避難等の対応で精一杯のため
3 仕事に従事するため
4 何を支援したらいいかわからない
5 近所とのつきあいが普段からない
6 何かあった際の責任がもてない
7 避難に支援が必要となる人の支援は行政がねがうべき
8 その他（ ）

※東日本大震災発生前に山本屋地区にお住まいだった人におたずねします。
(それ以外の人は問 33 へ)

Ⅵ. 避難指示解除後の生活などについて

問 31 あなたは、避難前に一緒に住んでいた家族と、現在も一緒に暮らしていますか。
(ひとつだけ○)

- 1 全員で暮らしている
- 2 数箇所に分かれて暮らしている

問 32 現在お住まいの地域での近所付き合い、友人・知人とのお付き合いや地域コミュニティなどの面で、お困りのことはありますか。(ひとつだけ○)

- 1 友人・知人の連絡先がわからない
- 2 友人・知人と集まる機会がない
- 3 元の行政区単位で集まる機会がない
- 4 現在の住まいの周りにいる町民どうしが集まる機会がない
- 5 現在の住まいの地域の人やボランティアと交流する機会がない
- 6 近くに情報交換や相談、書類記入をお願いできるような人がいない
- 7 その他 ()
- 8 特に困っていることはない

※すべての人におたずねします。

Ⅶ. 今後の保健福祉施策について

問 33 川俣町の保健福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。(3つまで○)

- 1 地域の支え合いの仕組みづくり
- 2 子どもの頃から福祉教育の充実
- 3 育児・子育ての支援体制の充実
- 4 高齢者や障がいのある人の在宅生活支援
- 5 地域でのさまざまな交流活動の促進
- 6 健康づくり事業と介護予防の充実
- 7 医療サービス体制の充実
- 8 公共施設等のバリアフリー化推進
- 9 移動手段の充実
- 10 ボランティアやNPOの育成と活動支援
- 11 地域における身近な相談体制づくり
- 12 福祉サービスに関する情報提供の充実
- 13 防犯・交通安全・防災体制の充実
- 14 福祉に従事する専門的人材の育成
- 15 ひきこもりや閉じこもりの自立支援
- 16 権利擁護・成年後見制度の充実
- 17 就労に困難を抱える人への支援の充実
- 18 認知症予防・認知症治療支援
- 19 その他 ()

○ 以下のテーマについて、何かご意見などございましたら、ご自由にお書きください。
地域での助け合い、支え合いのアイデア、自分ができること、地域で取り組むべきこと 等

ご協力ありがとうございました。

川俣町
第二次地域福祉計画策定のための
アンケート調査
ワークショップ・オンライン意見箱
調査結果報告書

令和7年3月発行

川俣町

〒960-1492 福島県伊達郡川俣町字五百田 30 番地
電話 024-566-2111